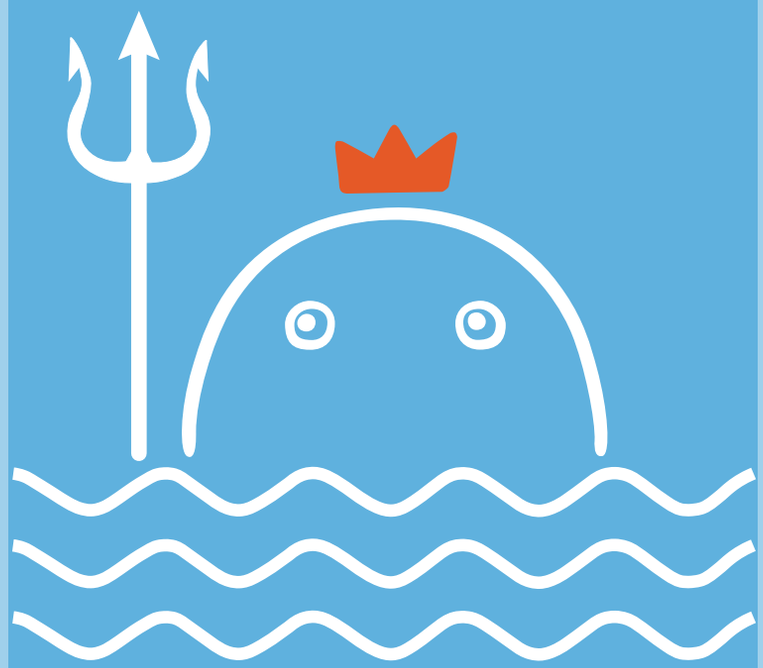
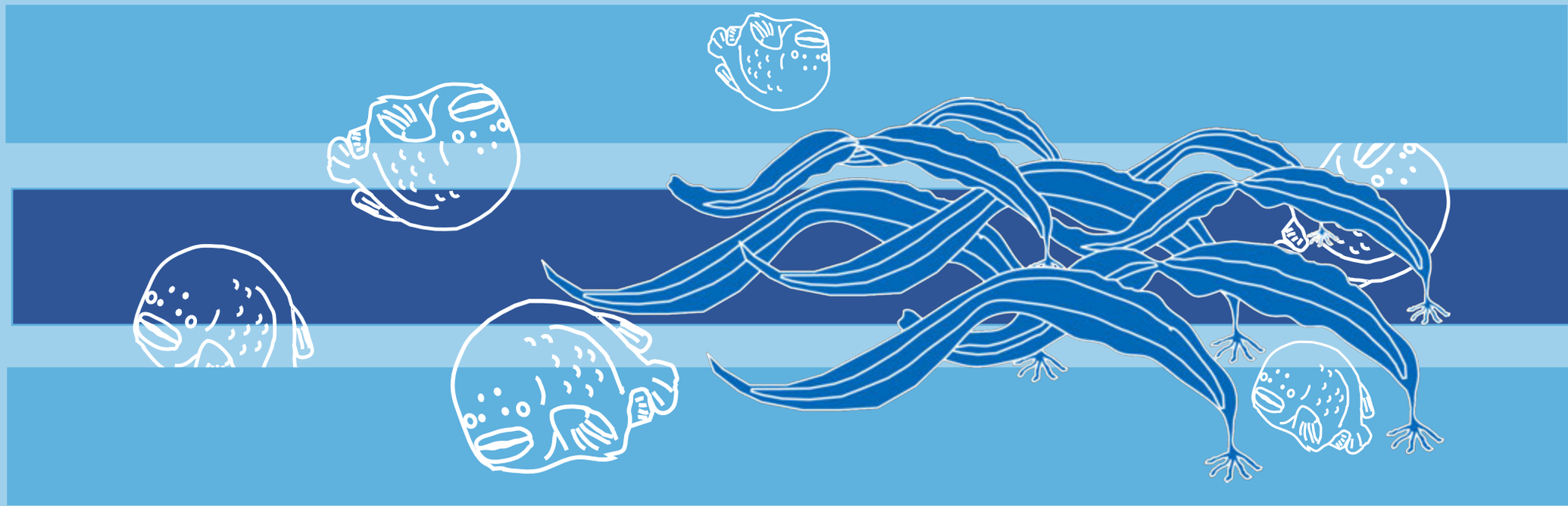
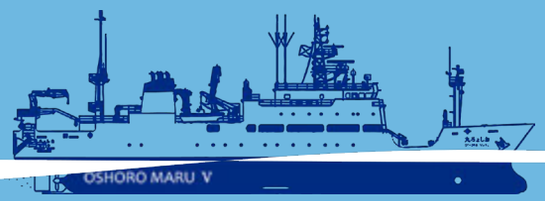


海の宝 2022



目　次

1. はじめに 1
2. イベント紹介 2
3. 海の宝アカデミックコンテスト2022 受賞者一覧 15
4. 海の宝アカデミックコンテスト2022 記念品と受賞作品 24
5. 海の宝アカデミックコンテスト2022 60



はじめに

海、それはいのちのふるさと。そこにはまだ見たこともない新しい可能性が眠っています。海を学び、体験することによって、人類や地球にとってのさらなる可能性、思いもつかなかった宝物を見つけ出してみませんか！

私たち日本人は海から計り知れない恩恵を受けてきました。さらに本当の豊かな「海」の恩恵を実感するためには、より積極的に海を知り、楽しみ、守り、活かす取り組みに触れることが重要です。本事業では、次代を担う若者、主に中学・高校生が「海」の素晴らしさを実感・体感できる教育システムを端緒として、「海」に対する知的好奇心を醸成します。さらに、自発的に「海」を学んで新たな「海の宝」を見出し、「海の宝アカデミックコンテスト」にトライし、「海」の未来と発展を考える若者を大学研究者や関連する専門家とともに応援します。

北海道大学では、前身の札幌農学校時代から水産学教育が始まり、大志を抱いて海に関する学術分野を切り拓いてきました。いまや海の科学は、従来の水産学の枠を超え、気象・気候などの地球環境、農業や関連産業と経済、海の映像・音楽・絵画・文学などの芸術、海辺のまちや地域の地理・歴史・文化・社会、水産物や海を活用した観光など、多彩な分野と密接なかかわりを持つようになりました。さらに近年では、SDGsの視点で海に関する取り組みが議論されるようにもなりました。海をテーマに融合したアカデミックユニット「海の北海道大学」では、コロナ禍の継続、経済・社会情勢の激変下の今年 2022年のプログラムで「新しい日常で海の魅力を考えよう」と一歩前を向くテーマを設定し、全国の中学・高校生を対象として「海の宝アカデミックコンテスト2022全国大会」を含む多様な海の宝に関わるイベント14件を開催しました。

プログラム代表
川合祐史

全国の中高生を対象とした「海の宝アカデミックコンテスト2022 全国大会 -海と日本PROJECT-」を行うにあたり、今を生きる人たちに「海」への関心を広げ、海の魅力、課題などを学び体験できるイベントを開催しました。また、Web「マリン・ラーニング」により、全国にイベントの様子や講演・コンテスト作品・ギャラリーなどを発信しました。

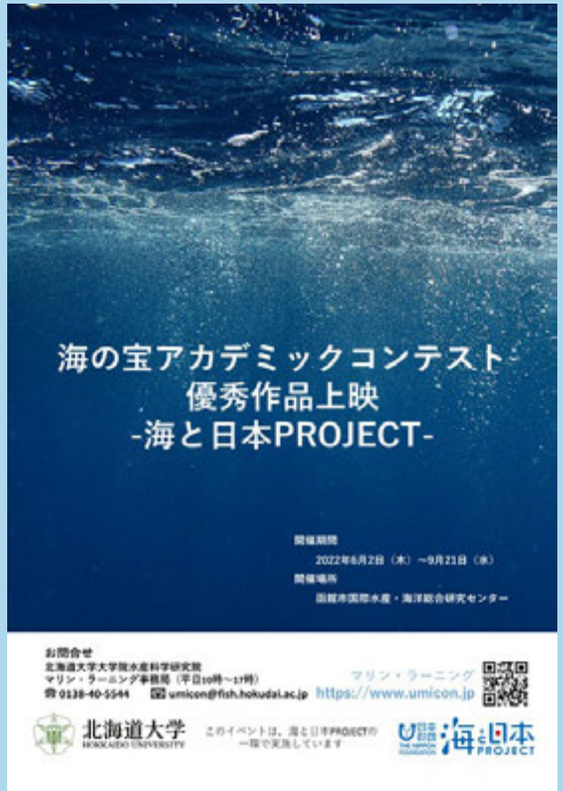
海の宝アカデミックコンテスト2022・新しい日常で海の魅力を考えよう（海と日本2022）イベント一覧

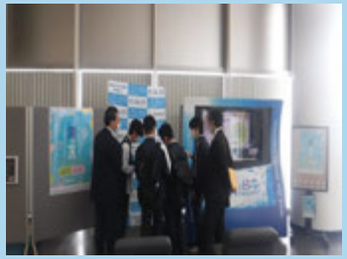
開催日	イベント名
5月28日 - 8月28日	大阪湾を知ろう！2022～海と日本PROJECT～ 海遊館 （大阪市）
6月 2日 - 9月21日	海の宝アカデミックコンテスト優秀作品上映 -海と日本PROJECT- 函館市国際水産・海洋総合研究センター
7月 8日 -7月22日	海の宝ってなんだろう 2022 -海と日本PROJECT- 函館市中央図書館展示ホール
7月 9日	北の海の生きものたちⅠ -海と日本PROJECT- ウニと海藻とヒト 函館市中央図書館視聴覚ホール
7月16日	北の海の生きものたちⅡ -海と日本PROJECT- エネルギーと生物と食資源 函館市中央図書館視聴覚ホール
7月23日	海の中を覗いてみよう！ 海と日本PROJECT 香川大学
7月28日	北海道大学水産学部附属練習船おしょろ丸Ⅴ 船内ヒ・ミ・ツ大見学会 -海と日本PROJECT- 函館市国際水産・海洋総合研究センター おしょろ丸（弁天埠頭停泊中）

開催日	イベント名
8月 2日 -8月 8日	2022海峡の夏・空から考える私たちの海の宝 -海と日本PROJECT- 函館空港 1F中央ホール
8月 5日 -8月 6日	北海道大学水産学部附属練習船うしお丸Ⅲ 建造工程のヒ・ミ・ツ大公開展 -海と日本PROJECT- DO-BOX（札幌市）
8月11日 8月28日	海と日本PROJECT ミッション２０２２ 科学の視点で船の魅力を深堀せよ！ ～帆船の魅力と航海技術～ 千葉市科学館 日本丸メモリアルパーク（横浜市）ほか
8月17日	海と日本PROJECT 鹿児島のサメを調べる ～サメ解剖教室～ かごしま水族館
8月18日	魚のからだを覗いてみよう！-海と日本PROJECT- 北海道大学函館キャンパス 七飯淡水実験所
8月20日	その“サーモン”どこからきたの？2022 ～海と日本PROJECT～ サケのふるさと千歳水族館（千歳市）
11月 5日	海の宝アカデミックコンテスト2022 全国大会 -海と日本PROJECT- 北海道大学大学院水産科学研究院大講義室

大阪湾を知ろう！2022～海と日本PROJECT～

日　　程	５月２８日（土）　／　６月１８日（土）　／　６月２６日（日）　／　７月１０日（日）　／　８月２８日（日）
開 催 場 所	海遊館、淀川海老江干潟、南港野鳥園
参 加 人 数	１２１名
概　　要	海遊館とNPO法人 南港ウェットランドグループは、連携して地元の高等学校や中学校を対象として環境学習の支援を行っており、その一環として「大阪湾」をテーマにした取り組みを行っている。体験を通して、大阪湾の自然環境や人間活動が環境に与える影響を知ってもらうことをねらいとしている。予定イベント７件のうち、8月27日の岸壁調査はコロナ感染予防対応で中止した。その他イベントは実施したが、7月16日の「石干見体験&シジミとり」イベントは天候不順により、8月28日に延期した。コロナ感染拡大の影響で海遊館の環境学習支援活動が一時中止となり、8月28日の石干見イベントは大阪市漁協業同組合が主催し、アカテガニ放仔観察会は、NPO法人南港ウェットランドグループが主催となった。



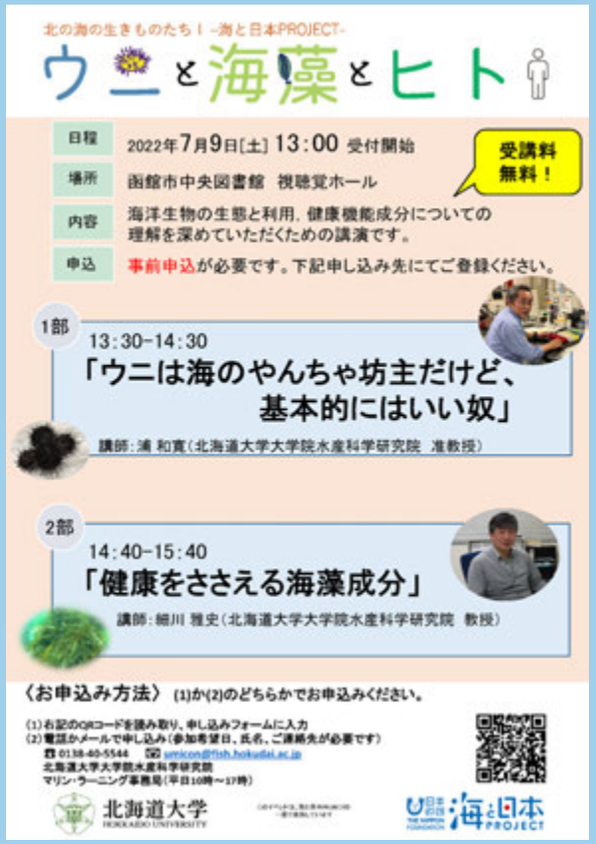


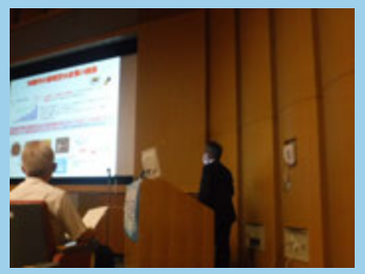
海の宝アカデミックコンテスト優秀作品上映 -海と日本PROJECT-

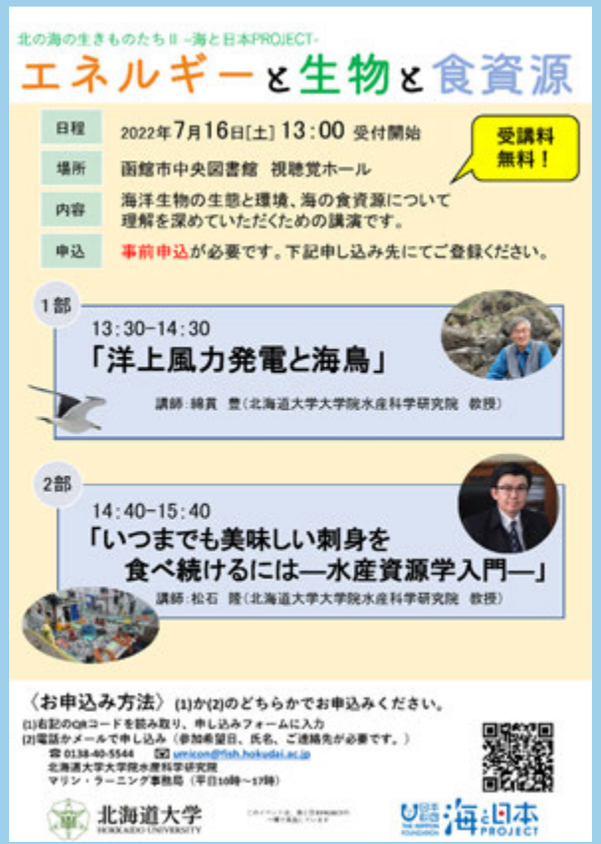
日　　程	６月２日（木）～９月２１日（水）
開催場所	函館市国際水産・海洋総合研究センター
参加人数	１，８６６名
概　　要	函館市国際水産・海洋総合研究センターのエントランスホールで海洋環境問題に関する動画上映（海の宝アカデミックコンテスト2021の優秀作品から6作品）することで来館者に海の宝アカデミックコンテスト2022のPR展示も併せて行った。

海の宝ってなんだろう 2022 -海と日本PROJECT-

日　　程	７月８日（金）～７月２２日（金）
開催場所	函館市中央図書館展示ホール
参加人数	３７２名
概　　要	函館市中央図書館の展示ホールにて「海の宝アカデミックコンテスト2021」の優秀作品やこれまでの入賞作品10作品のパネルを展示した。また、「海の宝アカデミックコンテスト」を周知し、私たちをめぐる「海」の環境問題について関心と興味を持ってもらうきっかけを提供した。





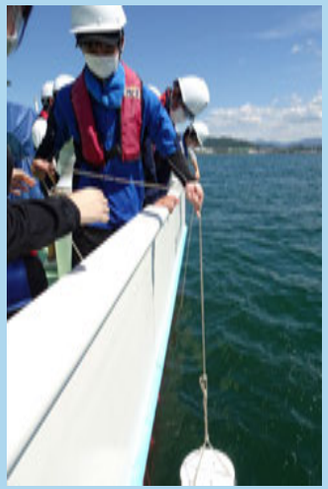


北の海の生きものたちⅠ -海と日本PROJECT-
ウニと海藻とヒト

日　　程	７月９日（土）
開催場所	函館市中央図書館視聴覚ホール
参加人数	４０名
概　　要	函館市中央図書館視聴覚ホールにて、北海道大学教員2名による「海洋生物の生態と利用、健康機能成分」についての講演を行った。

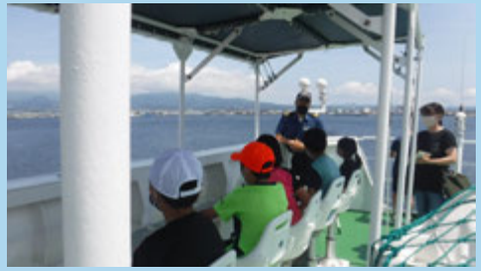
北の海の生きものたちⅡ -海と日本PROJECT-
エネルギーと生物と食資源

日　　程	７月１６日（土）
開催場所	函館市中央図書館視聴覚ホール
参加人数	２３名
概　　要	函館市中央図書館視聴覚ホールにて、北海道大学教員1名による「海洋生物の生態と環境、海の食資源」についての講演を行った。 （1部の講演は中止）



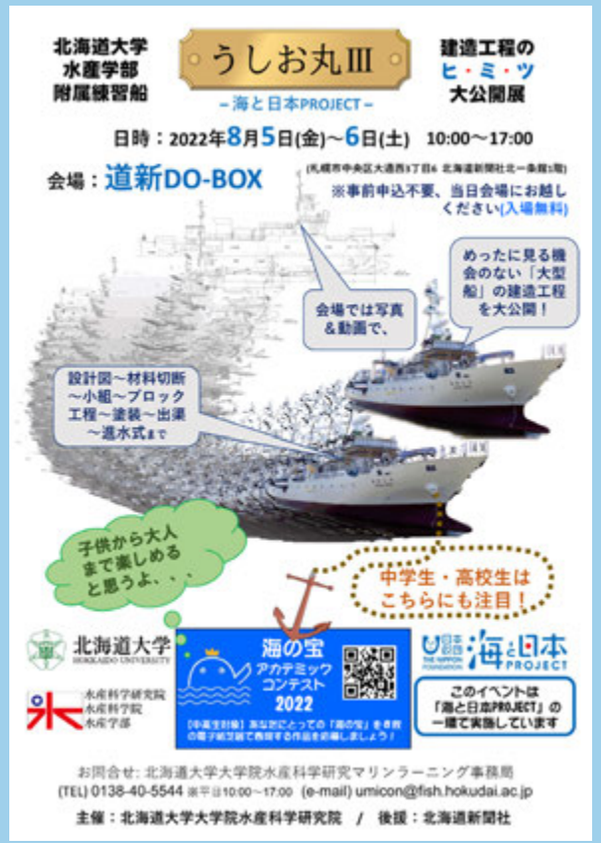
海の中を覗いてみよう！　海と日本PROJECT

日　　程	７月２３日（土）　９：００　～　１６：００
開 催 場 所	香川大学瀬戸内圏研究センター、庵治マリンステーション
参 加 人 数	３２名
概　　要	高校生を対象として香川大学の調査船カラヌスⅢに乗船し、海洋観測や海の微小な生物プランクトンの顕微鏡観察を行うなど身近な海について学び、次世代を担う若者に「海」への興味や関心を高めてもらった。



北海道大学水産学部附属練習船おしょろ丸Ⅴ 船内ヒ・ミ・ツ大見学会 –海と日本PROJECT–

日　　程	７月２８日（木）
開 催 場 所	函館市国際水産・海洋総合研究センター、おしょろ丸（弁天埠頭停泊中）
参 加 人 数	１６名
概　　要	おしょろ丸船内の見学や動画視聴により、船体の構造、運航や調査研究の設備のほか、船の安全装備・救命装備について知り、海への過剰な恐怖心をなくし、親しみを持って海への魅力に触れてもらった。



2022海峡の夏・空から考える私たちの海の宝 -海と日本PROJECT-

日　　程	８月２日（火）～８月８日（月）
開催場所	函館空港１F中央ホール
参加人数	５，７８０名
概　　要	「海の宝アカデミックコンテスト」2021年の受賞作品の中から海洋環境に関する作品の動画を放映することにより、「海の宝アカデミックコンテスト」を周知し、海への興味や関心を深めるきっかけを提供した。

北海道大学水産学部附属練習船うしお丸Ⅲ 建造工程のヒ・ミ・ツ大公開展 -海と日本PROJECT-

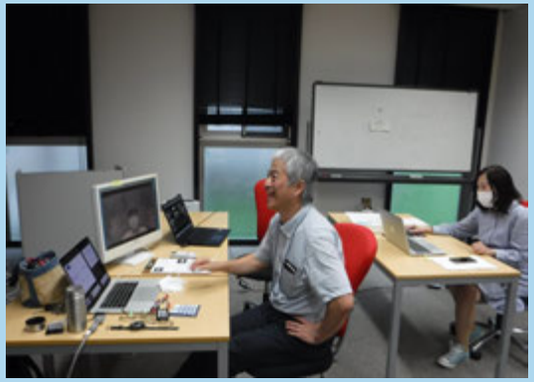
日　　程	８月５日（金）～６日（土）
開催場所	DO-BOX（札幌市）
参加人数	６４名
概　　要	一船一船が注文生産となる大型船の建造工程を通じて、船を作る魅力・船の構造の魅力を広く紹介し、「船」とそのフィールドである「海」への関心を高めてもらった。最新設備や建造過程に関する動画放映やポスター展示を通じて、「海」への興味や理解を深めてもらった。

海と日本PROJECT ミッション２０２２　科学の視点で船の魅力を深堀せよ！
～帆船の魅力と航海技術～

日　　程	①８月１１日（木祝）　②８月２８日（日）
開催場所	①晴海ふ頭・日本丸メモリアルパーク　②千葉市科学館
参加人数	①１９名　②２０名　延べ３９名
概　　要	二代目の帆船「日本丸」を俯瞰し、初代日本丸に乗船し、帆船の仕組み、航海技術、船上での生活に触れるとともに、科学の視点で船の魅力を探っていった。また、航海中の姉妹船 帆船「海王丸」とオンライン中継を行うことで洋上訓練や生活の様子を知った。

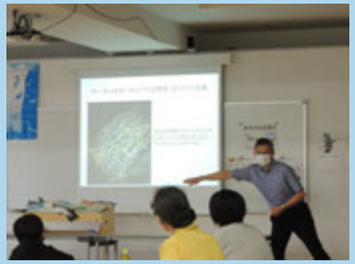
海と日本PROJECT　鹿児島のサメを調べる～サメ解剖教室～

日　　程	８月１７日（水）　１３：００ ～ １７：００
開催場所	かごしま水族館　レクチャールーム
参加人数	１５名
概　　要	鹿児島県内の定置網等で混獲されたサメを用いてサメについて学ぶ機会を提供し、解剖等の体験学習を通して「サメ」や「海」への興味や理解を深めた。



魚のからだを覗いてみよう！−海と日本PROJECT−

日　　程	８月１８日（木）
開 催 場 所	北海道大学函館キャンパス・七飯淡水実験所
参 加 人 数	４５名
概　　要	北海道大学函館キャンパスにて、「1匹の魚を食べるのは、魚を解剖実験するのと同じ」というコンセプトのもと、デジタル顕微鏡を使用した「宗八かれい塩焼の観察」と「透明標本の観察」のオンライン授業を行いました。



その“サーモン”どこからきたの？2022 ～海と日本PROJECT～

日　　程	８月２０日（土）　１３：００ ～ １５：００
開催場所	サケのふるさと千歳水族館 ２階学習室
参加人数	２４名
概　　要	北の「海の宝」の代表格である「サケ」を中心とした飼育・展示と「サケ」を通した教育活動を長期間に渡り実施してきた。本イベントでは、サケのふるさと千歳水族館と北海道大学大学院水産科学研究院および北海道内で回転ずしを展開している企業とが協力し、寿司ネタとしての「サーモン・サケ」に焦点を当て、座学、解剖、調理、試食といった五感で体験する食育により、「海の宝：サーモン・サケ」を理解してもらい、次世代を担う若者に「海や水産」への興味や関心を高めてもらうことを目的とし実施した。

海の宝アカデミックコンテスト2022 全国大会 –海と日本PROJECT–

日　　程	１１月５日（土）　９：３０ ～ １６：００
開 催 場 所	北海道大学大学院水産科学研究院大講義室
参 加 人 数	書類コンテスト・頂上コンテスト参加総数　７５７名
概　　要	「海」への知的好奇心を持った心豊かな若者を育成するため、全国の中学・高校生を対象とし、「海」の素晴らしさを実感・体験できる教育システムを端緒として、それぞれが「海の宝」を探し、自発的に「海」を語り活動する機会に中高生を導く。コロナ禍が継続する中、オンラインツールも活用しながら、2年ぶりに対面中心での開催となった。

あなたにとって「海の宝」は、なんですか？

海をテーマにしたアカデミックユニット「海の北海道大学」では、全国の中学・高校生を対象に、「海の宝アカデミックコンテスト2022全国大会」を開催しました。２０２２年はウィズコロナの状況下でも、いろいろな活動がコロナ前の状態に戻ってきました。７回目となるコンテストには全国から過去最高の２８４作品の応募がありました。

審査員による厳正な書類審査の結果、全国４ブロックから１２作品が頂上コンテストにノミネートされました。１１月５日（土）に北海道大学函館キャンパスで開催された頂上コンテストでは、多くの会場参加者、全国のウェブ参加審査員のもと、作品発表、質疑応答、審査、および大賞・優秀賞・奨励賞の表彰が行われました。さらに、多数の海洋関連の団体、機関から数々の特別賞が授与されました。

海の宝アカデミックコンテスト2022 全国大会 受賞者一覧

頂上コンテスト

マリン・サイエンス部門

海の宝大賞…１作品　りゅうぐうのつかい賞（優秀賞）…２作品　ちょうちんあんこう賞（奨励賞）…３作品

マリン・カルチャー部門

海の宝大賞…１作品　おとひめ賞（優秀賞）…２作品　うらしま賞（奨励賞）…３作品

全国４ブロック審査

優秀賞…１０作品　奨励賞…３６作品

特別賞…１７作品
（頂上コンテスト２部門を対象に、日本財団をはじめ、自治体、教育機関、企業からの特別表彰と副賞）

マリン・サイエンス部門（応募総数：８４作品）

受賞名	題名	受賞者名
海の宝大賞	海が宝 ～生物学的多様性の維持にかかるコストから考える～	岡村佳歩（山脇学園中学校）
りゅうぐうのつかい賞（優秀賞）	魚眼の光学的性質について	三浦悠雅（奈良女子大学附属中等教育学校）
りゅうぐうのつかい賞（優秀賞）	大人になれなかったもやし達 ～アマモ実生の本葉展開条件～	松井心優・三坂小春・迫田虹海・林志龍 （岡山学芸館高等学校）
ちょうちんあんこう賞（奨励賞）	農業用・漁業用の産業系プラスチックによる 瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染対策	村上陽向・近藤百々花・門田未来・ 廣江実采・蔵野美結 （愛媛大学附属高等学校理科部プラガールズ）
ちょうちんあんこう賞（奨励賞）	PET微粒子を含む寒天培地の実用的かつ簡易な調製法	酒井陽菜・松下麻耶・清田恵実 （三田国際学園高等学校）
ちょうちんあんこう賞（奨励賞）	炭酸カルシウム系水産廃棄物を用いた金属イオンの吸着 ～持続可能な社会活動に向けて～	中居佑太・内山大雅 （青森県立弘前中央高等学校自然科学部）
北海道・東北ブロック　優秀賞	アカモクの成育時期と形状多様性の評価	尾崎裕介（羽黒高等学校）
関東・中部ブロック　優秀賞	温度差を使った再生可能エネルギー	田口翔陽・近藤寛人 （神奈川県逗子開成中学校・高等学校）
近畿・中国ブロック　優秀賞	ウミケムシを利用するには～蛇行と毛の重要性～	小池里歩・奥山紗帆・山本心音 （岡山学芸館高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック　優秀賞	博多湾におけるより良いアマモの移植方法	進藤大雅（福岡工業大学附属城東高校）
四国・九州・沖縄ブロック　優秀賞	廃棄昆布と学校実習スラグを活用したブルーカーボン技術	冨岡雅浩・水口智稀 （愛媛県立松山中央高等学校）

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

受賞名	題名	受賞者名
北海道・東北ブロック 奨励賞	海藻に含まれるヨウ素の抽出について（第二報） ～抽出時間の違いによるヨウ素抽出量の変化～	佐藤有紗・守田天地・石岡裕崇・ 棟方令朗・蔦佳樹 （北海道函館中部高等学校）
北海道・東北ブロック 奨励賞	函館近海の魚類から採取したマイクロプラスチックの調査	佐々木優花・伊藤黎・小林藍・小林まゆ・ 松井咲樹（北海道函館中部高等学校）
北海道・東北ブロック 奨励賞	マガキの種苗生産には、ケイ素が必要？	塩谷拓海・坂本穣羽・木下幸成・ 草彌遥十・佐藤竜貴・澤田聖哉・松川玄宗 （北海道函館水産高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	越後Wineヒラメの開発プロジェクト2021-2022	北原舞香・加々美秀星・竹下郁冶・ 深澤瑞希・吉田笙人・渡邉海生 （新潟県立海洋高等学校 水産資源科資源育成コース）
関東・中部ブロック 奨励賞	「使わない」を無くしていく ～魚類残滓と外来植物を用いたフレグランスの作製～	山口晄生・倉賀野由郁・佐藤迅真・ 髙橋千紘・松井裕生 （新潟県立柏崎高等学校 生物部マリン・サイエンスチーム）
関東・中部ブロック 奨励賞	生分解性プラスチックはヒーローになれるのか ～海の魅力を守り伝えて行くために～	小玉風介・太田空弥・大原健太郎・ 鬼澤吾門（鎌倉学園高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	次世代の探査に対応した小型探査機～海のラジオゾンデ～	大谷有史・栢野向太朗・河合慈英・ 阿部瑛樹・酒井健悟 （東京工業大学附属科学技術高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	湧昇海流の新たなメカニズムを探る	山田稜真・菅野隼太・田中晄貴 （神奈川県逗子開成中学校・高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	紅藻カギケノリ系統保存株の最適生育条件の探索	角田苺香・高薄望沙・竹内六花・森谷奏・ 佐野綾香 （お茶の水女子大学附属高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	ゴミが集まる場所を見つけよう！ ～浮遊物とシミュレーションを用いた調査～	杉原壮太・柴田大翔 （岡山学芸館高等学校）

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

受賞名	題名	受賞者名
近畿・中国ブロック 奨励賞	バイオミメティクスを用いて水をより楽に、よりきれいに	村上友春（青翔開智高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	カキ礁が救うもの	城前拓人・甲野珈惟・森本響太・和田直季（大阪高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック 奨励賞	流れ藻	鎌田慶将（徳島県立徳島科学技術高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック 奨励賞	国場川のマングローブの水質は海藻の生育にどの程度適しているか	米坂碧・鬼塚結愛・張芸那・ウィルコックス廉（沖縄尚学高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック 奨励賞	牡蠣の殻で海洋汚染に立ち向かえ！	大塚晴矢・枦山英資・境野翠・山本徠夢・綿貫ひまり・藤春拓実・岩城咲羽（九州産業大学付属九州高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック 奨励賞	腕が増える？！ ～タコノマクラを人の手で育む～	高間愛・西本陽翔・佐藤凌平（福岡工業大学附属城東高校）

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

マリン・カルチャー部門（応募総数：１００作品）

受賞名	題名	受賞者名
海の宝大賞	魚膠～古の天然物質～	小高恵真・藤原さくら （京都先端科学大学附属中学校）
おとひめ賞（優秀賞）	ふどうさんごへ　ようこそ！	都筑暖和（札幌聖心女子学院中学校）
おとひめ賞（優秀賞）	『思いやり』の宝庫　柏崎の海	倉賀野由郁・佐藤迅真・髙橋千紘・ 松井裕生・山口晄生 （新潟県立柏崎高等学校 生物部マリン・サイエンスチーム）
うらしま賞（奨励賞）	鉄炭団子で一石二鳥の可能性！？ ～海洋環境保全と養殖業の安定～	山口明里・石﨑杏香・潮田有紀・ 橋本彩花・　松井雪花 （愛媛県立宇和島東高等学校）
うらしま賞（奨励賞）	未利用魚を使った寿司の缶詰を作りたい	下中くるみ・池尾柚夢・中本莉緒・ 松原心菜（福井県立若狭高等学校）
うらしま賞（奨励賞）	アニサキス、サガス！	村井芳羽（函館白百合学園中学校）
北海道・東北ブロック　優秀賞	青森県にいるかっているんか？	小野菜々子・小林七海・柴田匠美・ 佐藤望愛留 （青森県立弘前中央高等学校自然科学部）
関東・中部ブロック　優秀賞	Ask Yourself, Before Throwing Away Your Mask!	鬼澤吾門・辻本珠才・山田ゆうき （Ocean Weekend Youth）
近畿・中国ブロック　優秀賞	日本から世界へ　ジャマモ「サルガッスム」の有効活用法	平岩恋季（岡山学芸館高等学校）
近畿・中国ブロック　優秀賞	深海の数学者	山上朔汰・伍賀祐寛 （岡山学芸館高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック　優秀賞	干潟の宝～干潟について学ぼう！～	渡邊花菜・山下沙菜 （福岡工業大学附属城東高校）
北海道・東北ブロック　奨励賞	海洋酸性化	三好澪（函館白百合学園中学校）

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

受賞名	題名	受賞者名
北海道・東北ブロック 奨励賞	「ゆめ水族園がやって来た！」	菅原美羽・中道慎太・坂本夢乃・黒島周弥・高稀星・原口悠汰・吉村幸姫・髙橋海梨・丸山柚輝（北海道函館養護学校中学部美術科）
北海道・東北ブロック 奨励賞	わかめのひみつ～宮城の海の宝～	布川琥大郎・吉野琉功・市原芽夕・佐藤圭・服部恭也（宮城県仙台第三高等学校）
北海道・東北ブロック 奨励賞	眠りにつくと	白石かのん（北海道小樽水産高等学校）
北海道・東北ブロック 奨励賞	海になる　大久保来星編	大久保来星（北海道函館養護学校高等部）
関東・中部ブロック 奨励賞	魚粉を使ったお菓子作り	梅垣陽央・山本泰輝・松宮豪汰（福井県立若狭高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	魚のアラをソーセージに変身させよう	小堂結花・北川裕娘・細川和瑚（福井県立若狭高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	海のそうじ屋?～フナムシの秘密～	稲葉一仁（神奈川県逗子開成中学校・高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	What is Zushi beach?　～海水浴場とはなにか～	宮山祥・北島理仁（神奈川県逗子開成中学校・高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	日本の海から生まれたちくわ	四方真人・安原葵（大阪府立工芸高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	あつまれ学芸館海洋研究組	林志龍（岡山学芸館高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	海を照らす月	小谷真央・木野晴菜・中山栞那・足立共・森田暖大（関西大倉高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	海鳥のフンの役割	夏山風花・天野芙香（大阪府立工芸高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	海女さんはすごい！　～50秒の勝負～	辻みなつ・西口月渚（大阪府立生野高等学校　写真部）

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

受賞名	題名	受賞者名
四国・九州・沖縄ブロック　奨励賞	ヒオウギ貝は白墨である	山本雅登・松岡涼華（未来高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック　奨励賞	全ての生物が幸福であるかのように	藤原楓也（徳島県立徳島科学技術高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック　奨励賞	伊予さつまの秘密	小西一樹・重松優作・片山千隼（未来高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック　奨励賞	友高さんと家出した褐虫藻	高安芙佳・友寄美花（上本部中学校）
四国・九州・沖縄ブロック　奨励賞	ミニ水族館「風早アクアランド」を活用した環境啓発活動	愛媛県立北条高等学校「風早アクアランド」
四国・九州・沖縄ブロック　奨励賞	知ってる？養殖のこと	川野嘉斗（香川県立坂出高校）

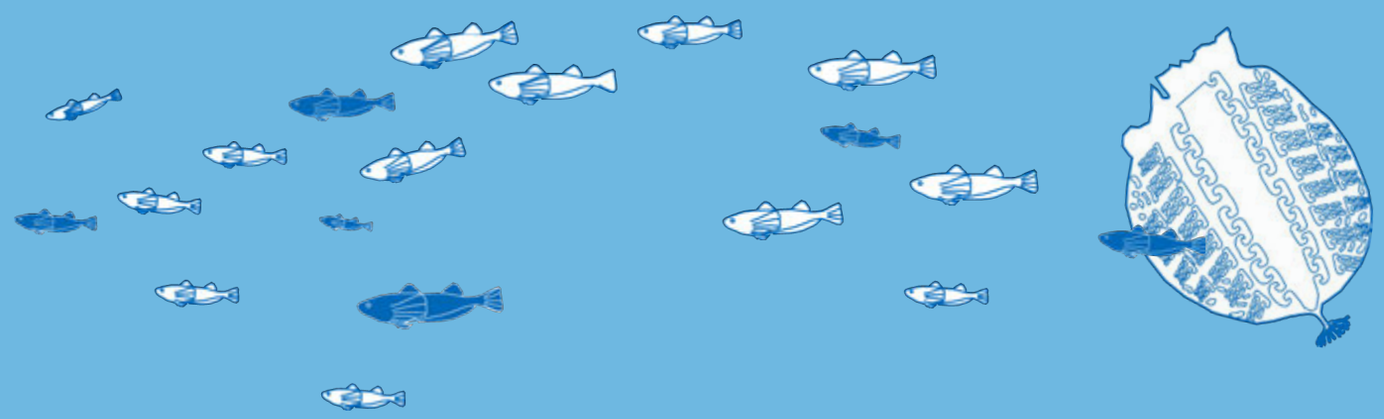
「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

特別賞

受賞名	題名	受賞者名
マリン・サイエンス部門 日本海洋科学振興財団 オーシャン・アート賞	魚眼の光学的性質について	三浦悠雅 （奈良女子大学附属中等教育学校）
マリン・カルチャー部門 日本海洋科学振興財団 オーシャン・アート賞	鉄炭団子で一石二鳥の可能性！？ ～海洋環境保全と養殖業の安定～	山口明里・石﨑杏香・潮田有紀・ 橋本彩花・松井雪花 （愛媛県立宇和島東高等学校）
千葉市科学館賞	海が宝 ～生物学的多様性の維持にかかるコストから考える～	岡村佳歩（山脇学園中学校）
マリン・サイエンス部門 マリンイノベーション特別賞	大人になれなかったもやし達 ～アマモ実生の本葉展開条件～	松井心優・三坂小春・迫田虹海・林志龍 （岡山学芸館高等学校）
マリン・カルチャー部門 マリンイノベーション特別賞	ふどうさんごへ　ようこそ！	都筑暖和（札幌聖心女子学院中学校）
海文堂出版・北水ブックス賞	鉄炭団子で一石二鳥の可能性！？ ～海洋環境保全と養殖業の安定～	山口明里・石﨑杏香・潮田有紀・ 橋本彩花・松井雪花 （愛媛県立宇和島東高等学校）
マリン・サイエンス部門 医食同源賞	海が宝 ～生物学的多様性の維持にかかるコストから考える～	岡村佳歩（山脇学園中学校）
マリン・サイエンス部門 医食同源賞	農業用・漁業用の産業系プラスチックによる瀬戸内海の マイクロプラスチック汚染対策	村上陽向・近藤百々花・門田未来・ 廣江実采・蔵野美結 （愛媛大学附属高等学校理科部プラガールズ）
マリン・カルチャー部門 医食同源賞	魚膠～古の天然物質～	小高恵真・藤原さくら （京都先端科学大学附属中学校）
マリン・カルチャー部門 医食同源賞	アニサキス、サガス！	村井芳羽（函館白百合学園中学校）

特別賞

受賞名	題名	受賞者名
マリン・サイエンス部門 道南伝統食品協同組合賞	大人になれなかったもやし達 ～アマモ実生の本葉展開条件～	松井心優・三坂小春・迫田虹海・林志龍 （岡山学芸館高等学校）
マリン・サイエンス部門 道南伝統食品協同組合賞	炭酸カルシウム系水産廃棄物を用いた金属イオンの吸着 ～持続可能な社会活動に向けて～	中居佑太・内山大雅 （青森県立弘前中央高等学校自然科部）
マリン・カルチャー部門 道南伝統食品協同組合賞	『思いやり』の宝庫　柏崎の海	倉賀野由郁・佐藤迅真・髙橋千紘・ 松井裕生・山口晄生 （新潟県立柏崎高等学校 生物部マリン・サイエンスチーム）
マリン・カルチャー部門 道南伝統食品協同組合賞	未利用魚を使った寿司の缶詰を作りたい	下中くるみ・池尾柚夢・中本莉緒・ 松原心菜（福井県立若狭高等学校）
函館市の魚「イカ」賞	『思いやり』の宝庫　柏崎の海	倉賀野由郁・佐藤迅真・髙橋千紘・ 松井裕生・山口晄生 （新潟県立柏崎高等学校 生物部マリン・サイエンスチーム）
日本財団賞	魚膠～古の天然物質～	小高恵真・藤原さくら （京都先端科学大学附属中学校）
北海道大学水産学部賞	PET微粒子を含む寒天培地の実用的かつ簡易な調製法	酒井陽菜・松下麻耶・清田恵実 （三田国際学園高等学校）



記念品

賞旗

記念リボン

受賞者名入りペナント

海の宝大賞

りゅうぐうのつかい賞/ ちょうちんあんこう賞/

おとひめ賞/うらしま賞

表彰状

海の宝大賞

りゅうぐうのつかい賞

ちょうちんあんこう賞

おとひめ賞

うらしま賞

賞旗製作

クレハタヤ染工場

染色家（印染/型絵染/筒引染 ）

浦　啓之輔　(Keinosuke Ura)

昭和9年広島県呉市生まれ。
戦後、染物屋で修行した後に昭和36年に独立。
クレハタヤ染工場を創立し、褪せることなき志「色染め、心染め、日本の染め」を掲げ、大漁旗など数々の芸術品を今なお世に送り出している。

記念品一式

- ■ 北海道大学オリジナルグッズ
- ■ 海の宝アカデミックコンテスト2022グッズ
- ■ おしょろ丸カレー

副賞

■おしょろ丸カレー

海の宝大賞（３０食）

りゅうぐうのつかい賞（１０食）

ちょうちんあんこう賞（１０食）

おとひめ賞（１０食）

うらしま賞（１０食）

特別賞 副賞

日本海洋科学振興財団オーシャン・アート賞

プレゼンター：日本海洋科学振興財団

■海峡サーモンの詰め合わせ

マリン・サイエンス部門　１作品

マリン・カルチャー部門　１作品

千葉市科学館賞

プレゼンター：千葉市科学館

■千葉市科学館オリジナルグッズ詰め合わせ

函館市の魚「イカ」賞

プレゼンター：函館市

■イカ製品詰め合わせ

海文堂出版・北水ブックス賞

プレゼンター：海文堂出版株式会社

■北水ブックス既刊９点セット

マリンイノベーション特別賞

プレゼンター：北海道マリンイノベーション株式会社

■北大ガゴメ商品セット

医食同源賞

プレゼンター：株式会社医食同源

■がごめ昆布おかず手造りセットほか食品
マリン・カルチャー部門　２作品

■マスクスプレーほかヘルスケア用品
マリン・サイエンス部門　２作品

道南伝統食品協同組合賞　　プレゼンター：道南伝統食品協同組合

■とろろこんぶセット（道南伝統食品協同組合）
マリン・サイエンス部門　２作品
マリン・カルチャー部門　２作品

日本財団賞　　プレゼンター：日本財団

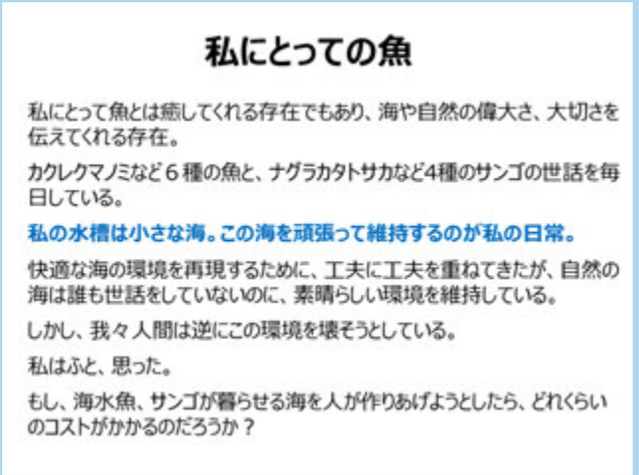
■海と日本PROJECT
コラボ商品の詰め合わせ

北海道大学水産学部賞　　プレゼンター：北海道大学大学院水産科学研究院

■おしょろ丸グッズ
・おしょろ丸カレー
・トートバッグ
・ボールペン・ポストカード
・Ｔシャツ・キャップ
・タンブラー

①

②



私にとっての魚

私にとって魚とは癒してくれる存在でもあり、海や自然の偉大さ、大切さを伝えてくれる存在。

カクレクマノミなど６種の魚と、ナグラカタトサカなど4種のサンゴの世話を毎日している。

私の水槽は小さな海。この海を頑張って維持するのが私の日常。

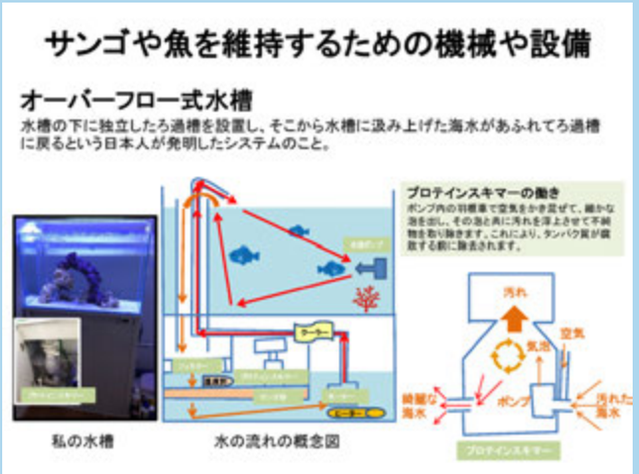
快適な海の環境を再現するために、工夫に工夫を重ねてきたが、自然の海は誰も世話をしていないのに、素晴らしい環境を維持している。

しかし、我々人間は逆にこの環境を壊そうとしている。

私はふと、思った。

もし、海水魚、サンゴが暮らせる海を人が作りあげようとしたら、どれくらいのコストがかかるのだろうか？

③



サンゴや魚を維持するための機械や設備

オーバーフロー式水槽

水槽の下に独立したろ過槽を設置し、そこから水槽に汲み上げた海水があふれてろ過槽に戻るという日本人が発明したシステムのこと。

私の水槽　　水の流れの概念図

マリン・サイエンス部門　**海の宝大賞（最優秀賞）**
/千葉市科学館賞 /医食同源賞
「海が宝　～生物学的多様性の維持にかかるコストから考える～」
岡村佳歩（山脇学園中学校）

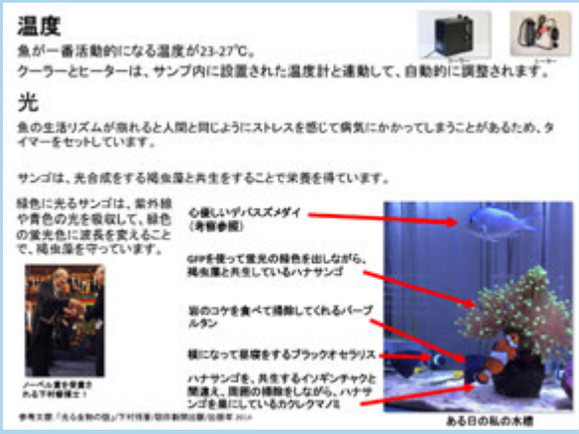
作品概要

「海の宝」はコンテストの題名。私のタイトルは「海が宝」。
「自然を大切に」というメッセージは、ずっと発信されてきているのに、なぜ環境破壊は進んでしまうのでしょうか。きっと本当のメッセージが伝わっていないからだと私は感じます。海の宝を守るには、宝である海を守らないといけないのです。そこで、多様性の維持にかかるコストを計算し、自然の偉大さを数値化してみました。私の発表で、お金だけでは解決出来ないことがあること、さらには多様性の維持がなぜ大切なのかにつき、皆で考えるきっかけになってもらえるとうれしいです。

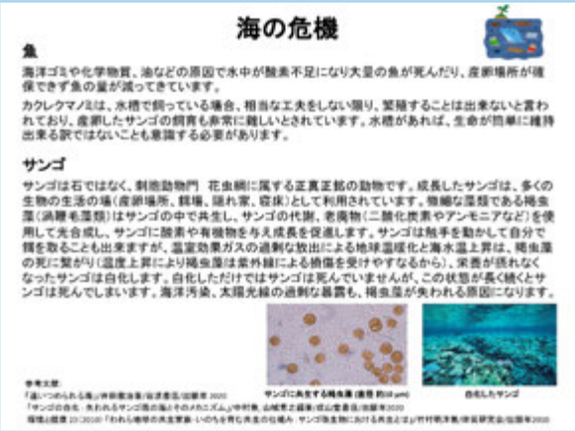
審査員評

当研究は海の宝大賞にも輝いた作品ですが、コンテストの対象学年としては最年少の中学1年生が、自らの経験を元に昨今の最重要課題である生物多様性の維持について独自の視点でアプローチした研究として大いに評価します。特にアカデミックコンテストの主題である「海の宝」を超越して「海そのものが宝」という観点での考察は斬新です。加えて受賞者が考察している「多様性を保つのは私たち人間の責任」は多くの場で提起されていますが、それを自らが飼育種を観察するプロセスの中で考察している姿が素晴らしいの一言です。　　千葉市科学館　館長補佐　新　和宏

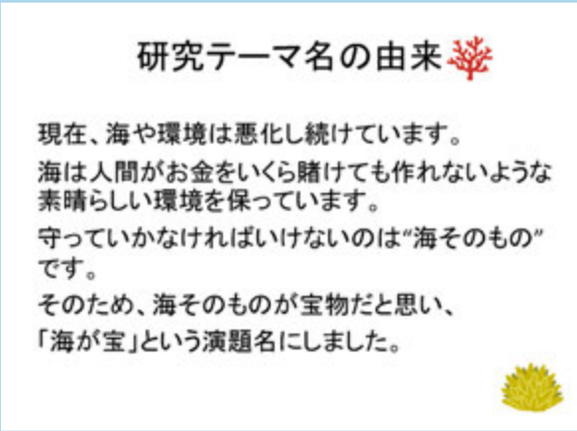
④



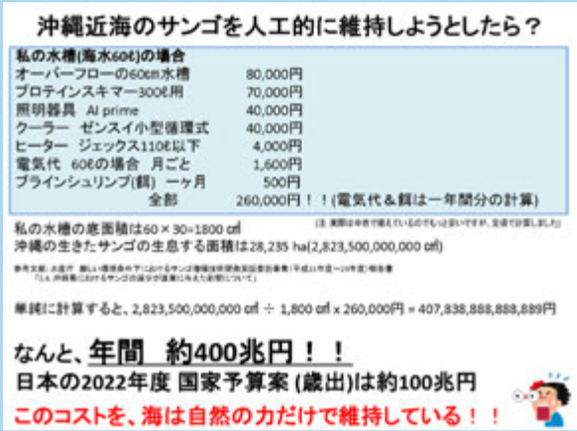
⑤



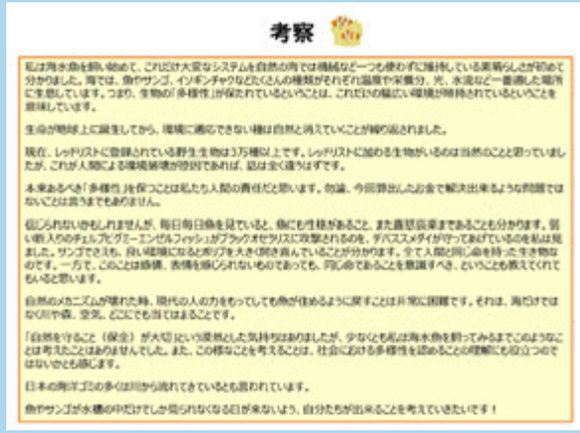
⑥

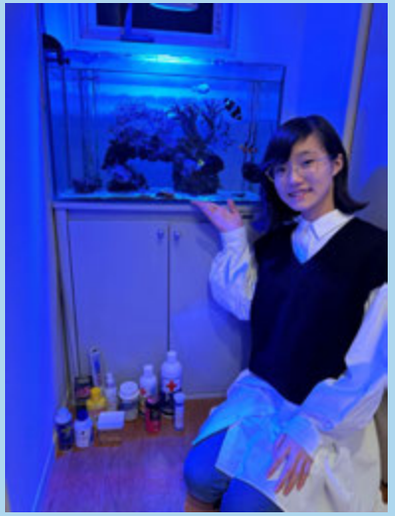


⑦



⑧



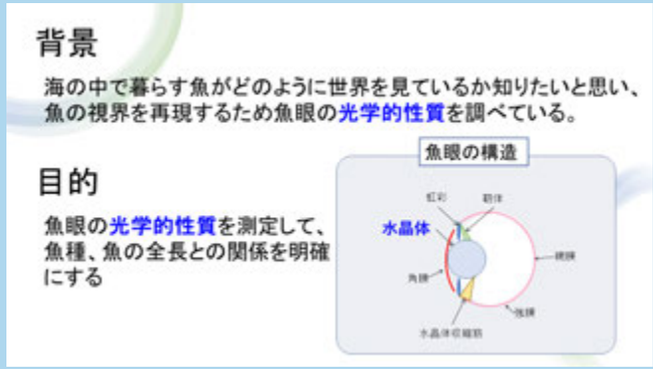


受賞者の声

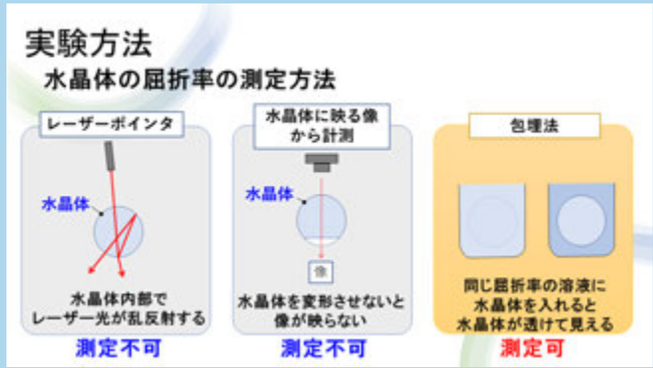
コンテストに応募する時、私の研究は少し変わった内容だったので、場違いではないかと、とても心配でした。でも、海の素晴らしさが失われてきていること、この状況はいくらお金をかけても戻せなくなってしまうことを伝えたいと思い、思い切って応募することを決めました。その結果、海の宝大賞を頂くことができ、嬉しい気持ちでいっぱいです！このメッセージを少しでも多くの方に知っていただけると嬉しいです。末筆ですが、このコンテストに関わって下さった皆様に、心から感謝申し上げます。

①

②



③



マリン・サイエンス部門　りゅうぐうのつかい賞
/日本海洋科学振興財団オーシャン・アート賞
「魚眼の光学的性質について」
三浦悠雅（奈良女子大学附属中等教育学校）

作品概要

本研究では、人間の視点から考えた魚の世界の見方を明らかにするため、魚の脳内の視覚処理ではなく、魚の視界を再現することを考え、魚眼の光学的性質を調べている。

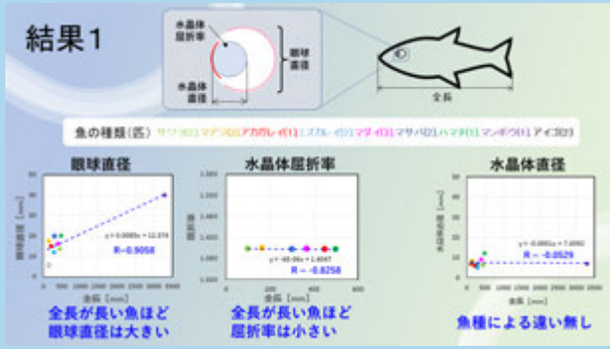
魚眼の光学的性質の中で、水晶体の大きさ、屈折率、焦点距離、眼球直径を測定した。その結果、全長の違いによる眼球直径と屈折率に相関がみられることを明らかにした。また、ヒトの水晶体と像の結び方が同じと仮定すると、今回の測定からどの魚種においても近視であることが導き出せた。

審査員評

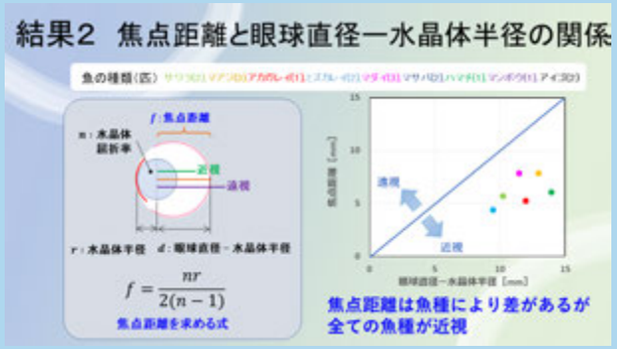
魚が近視とは。魚はどのように水中で色々なものをどう見て感じているかなど魚の魅力の一端の世界に引き込む研究発表でした。
先ず、着眼点が素晴らしい。水槽の魚が私たちをどう見ているかと気になったことはあるが、どの様に見えているかは考えたことはないように思います。研究過程で困ったことに対する工夫時の発想の転換も興味を引きます。発表資料も聞いている人に分かり易く整理され、今後の展望まで示していました。なかなか欠点を指摘し難い素晴らしい研究発表でした。　日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所　所長　渡邉　修一

④

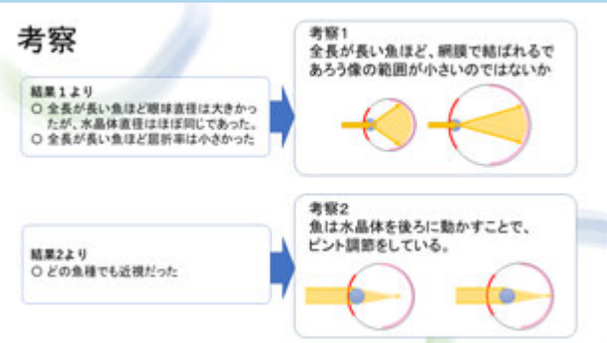
⑤



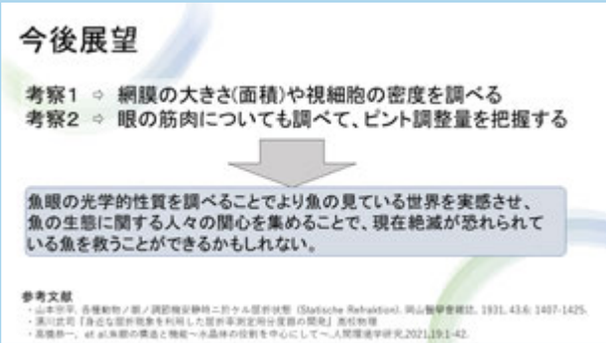
⑥



⑦



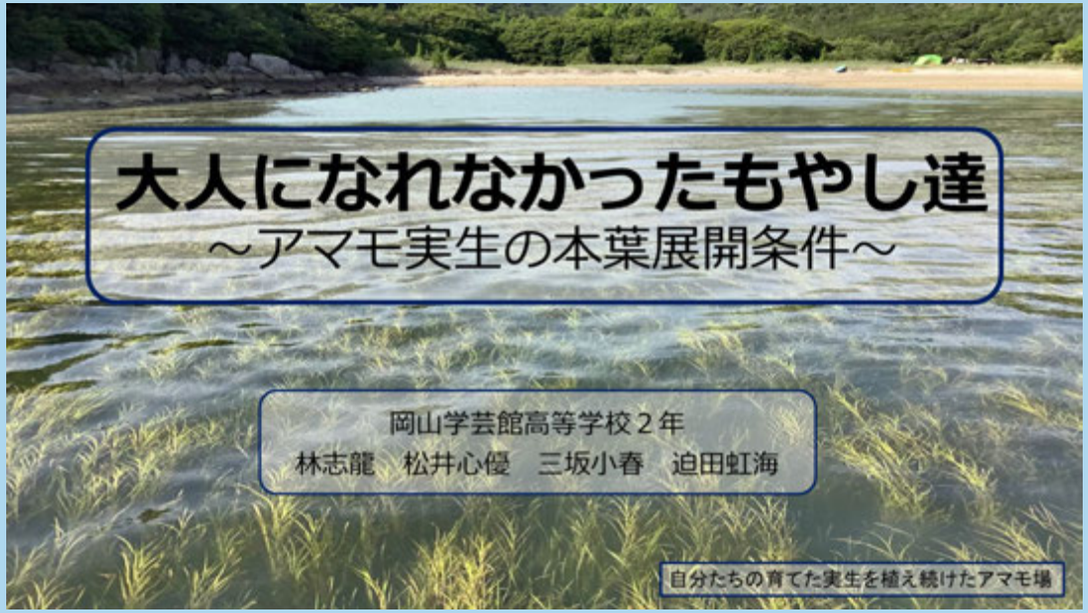
⑧



受賞者の声

発表を聞いてくださった水産学部の先生方からアドバイスをいただき感謝しております。参考になる温かいご意見ばかりで、今後研究に取り入れていき、魚の視界を再現することが楽しみです！また、本コンテストを通して、海の生き物を守るための様々なアプローチに触れることができました。異なる地域から集まった学生たちですが、尊い生き物への想いは通じ合うのでは、と環境を守る一端になりたい気持ちが強くなりました。

①



②

③

マリン・サイエンス部門　りゅうぐうのつかい賞
/マリンイノベーション特別賞 /道南伝統食品協同組合賞
「大人になれなかったもやし達～アマモ実生の本葉展開条件～」
松井心優・三坂小春・迫田虹海・林志龍（岡山学芸館高等学校）

作品概要

岡山学芸館高校医進サイエンスコースで取り組んでいるアマモ場再生活動の際、アマモ実生が本葉展開したものともやし化したものに分かれた。私たちは効率的にアマモ場再生活動を行うため、もやし化の原因を探った。もやし化の原因を突き止めるために、バクテリアと着底姿勢、無機塩類濃度の３つに注目して実験を行った。その結果、全ての原因がもやし化と深く関係していると考えることができ、何らかの影響を与えていると考えられた。

審査員評

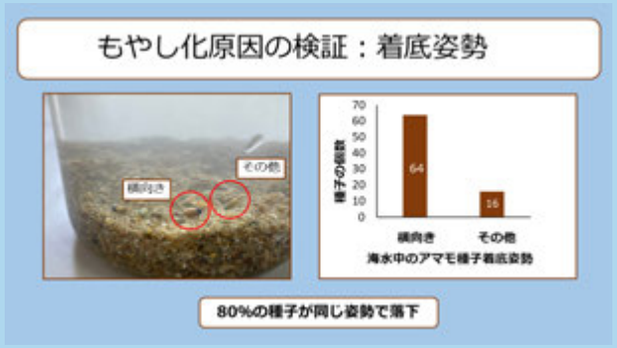
アマモ藻場の再生活動を通じて、定着性・効率化を向上させるために実生の本葉展開に着目して、その条件を解明して今後の活動に活かそうとする研究に感心しました。藻場再生活動に長期間に亘って取り組み、今後の活動に有効な対策を考えて研究する姿には頭が下がりました。この研究の成果が形となって次世代の藻場再生活動が発展して行く事を期待しています。

北海道マリンイノベーション株式会社　代表取締役　布村　重樹

④

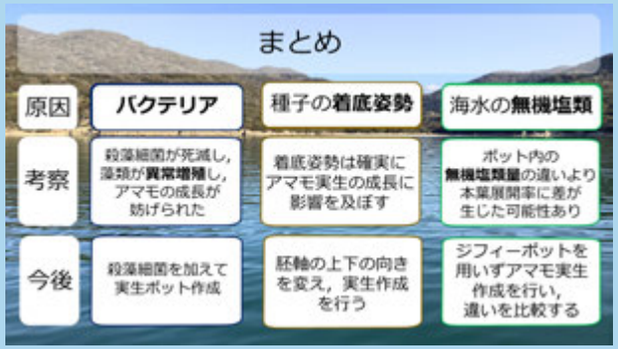
⑤

⑥



⑦

⑧

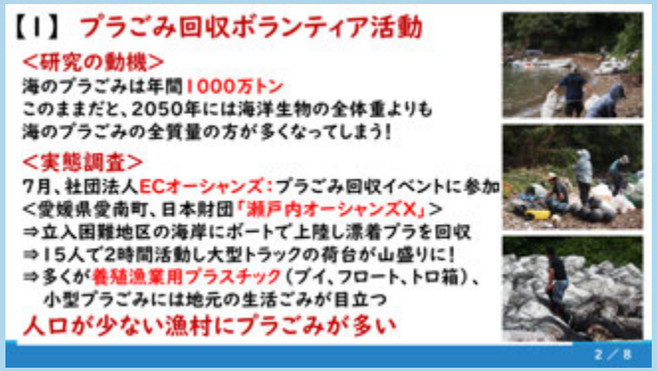


受賞者の声

この度は、海の宝頂上コンテストに参加させていただきありがとうございました。りゅうぐうのつかい賞・2つの特別賞を受賞することができ、大変光栄に感じています。また、私たちが目標にしている「多くの人にアマモを知ってもらう」ことに一歩近づくことができてとても嬉しいです。
今回の貴重な経験を活かして、アマモの本場展開条件を明かすために、これからも研究活動に取り組み、後輩に良いバトンパスをできるよう頑張ります。

①

②



③

マリン・サイエンス部門　ちょうちんあんこう賞 /医食同源賞

「農業用・漁業用の産業系プラスチックによる瀬戸内海の
マイクロプラスチック汚染対策」

村上陽向・近藤百々花・門田未来・廣江実采・蔵野美結
（愛媛大学附属高等学校理科部プラガールズ）

作品概要

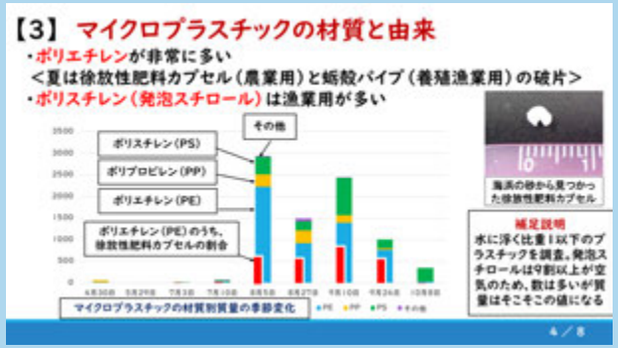
地元の海岸調査から、夏になると農業用と漁業用のプラスチック由来のマイクロプラスチックが急増することがわかった。併行して実施した用水路の農業用プラスチック調査では、田植え後に一次マイクロプラスチックの流出が顕著になった。一方、二次マイクロプラスチックは養殖漁業由来の蛎殻パイプやフロートの破片が目立った。閉鎖海域である瀬戸内海は地元の産業による海洋汚染が大きいことから、美しい瀬戸内海を守る対策を考えた。

審査員評

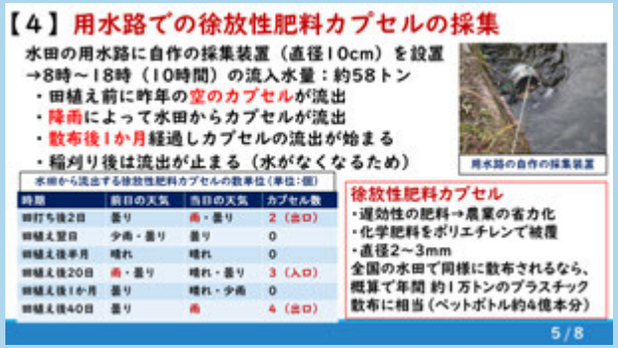
プラガールズは本コンテストでは常連ですが、毎回異なる角度からの研究を発表してくれています。今回は海岸で回収されるマイクロプラスチックの材質と由来についてでした。一見地味に見える調査でも、季節をまたいで同じ条件で定量的・定質的に追跡するのは大変なことです。また、過疎の漁村にはプラスチックごみが溜まっているとの報告もありました。現状の科学的な把握は対策の基盤であり、今後の継続と発展を期待しています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター　教授　清水　宗敬

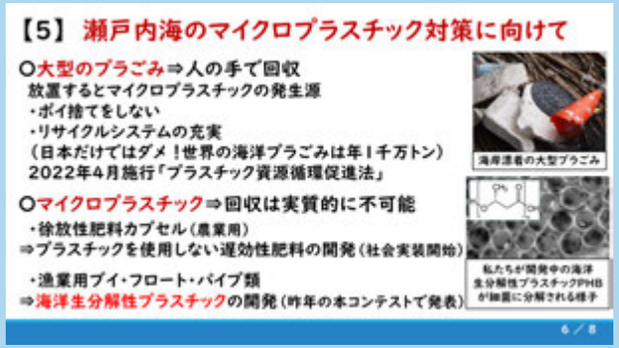
④



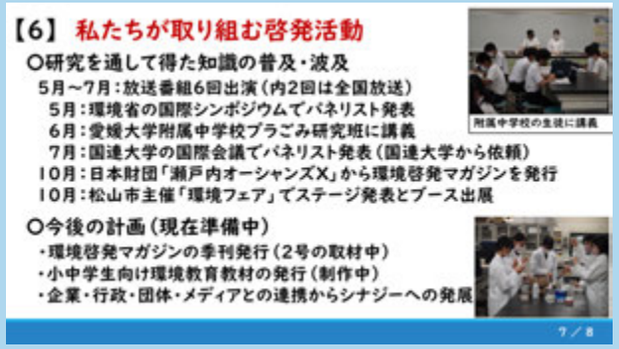
⑤



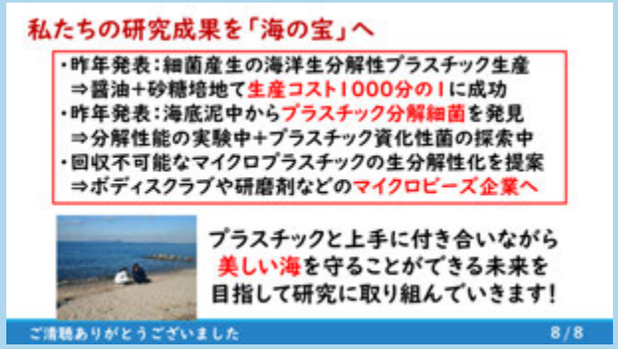
⑥



⑦



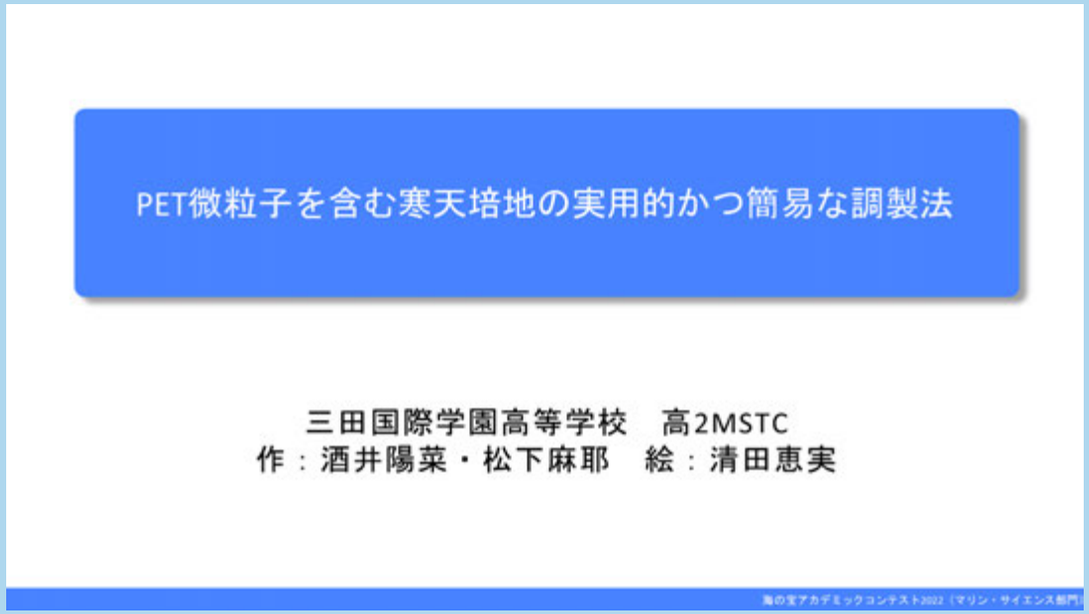
⑧



受賞者の声

素晴らしい賞をいただけて光栄です。プラガールズは決勝大会にこれで３年連続の出場ですが、今年初めて北海道で発表させていただきました。対面だからこその出会い、伝わってくる思い、感動があり、本当に参加できて良かったと思います。これからの研究のヒントもいただきました。この研究には先輩方の代からの２年半の歴史があります。プラスチックを使う生活と美しい海を守ることの両立を目指して、この研究を引き継いでいきます。

①



②

③

マリン・サイエンス部門　ちょうちんあんこう賞
/北海道大学水産学部賞

「PET微粒子を含む寒天培地の実用的かつ簡易な調製法」
酒井陽菜・松下麻耶・清田恵実（三田国際学園高等学校）

作品概要

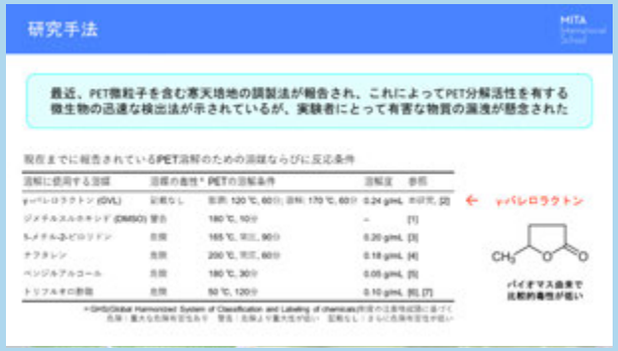
人工的に作り出したPET分解微生物によるPET分解酵素の分泌ならびにPET分解活性を検出する迅速なスクリーニング法として、PET微粒子を含む寒天培地を作製した。γ-バレロラクトンを溶媒とした温和な条件での溶解・沈澱法により、従来よりも簡便に含PET微粒子寒天培地を調製することができた。今回我々が開発した調製法により、目視でのPET分解酵素の活性確認を可能にした。

審査員評

①大腸菌の組換え実験やリコンビナントタンパク質合成など，高度な実験技術を使いこなしていること，②将来のマイクロプラスチック分解細菌の獲得に向けて大量の試料をスクリーニングするのに適したアッセイ系を構築できたことから，研究の大きな発展が見込めること，③研究目的の達成に向けて，優れた研究方略のもと着実に研究を推進していること，の三点を高く評価し，北海道大学水産学部賞の受賞作として選定させて頂きました。

北海道大学大学院水産科学研究院　教授・研究院長　　都木　靖彰

④



⑤

⑥

⑦

⑧

受賞者の声

この度はちょうちんあんこう賞、北海道大学水産学部賞を頂き、大変嬉しく思います。他校の皆さんとの交流は刺激になり、本研究をさらに発展させていきたいという気持ちが高まりました。

また、大学の実験室の見学や大学生・大学院生の方々とのお話を通じて、海についての関心も深まりました。今後は、今回作成した培地を用いて反応条件を最適化することやこの培地を環境中のPET分解微生物を検出する手段として使用することを検討していきたいと思います。

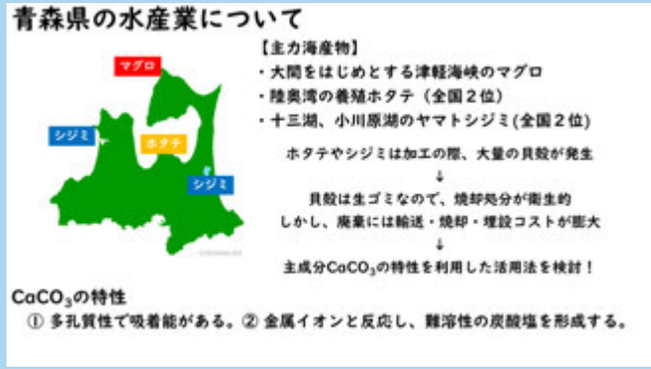
①

炭酸カルシウム系水産加工廃棄物を用いた金属イオンの吸着

～持続可能な社会活動に向けて～

青森県立弘前中央高等学校　自然科学部
３年　中居　佑太　　１年　内山　大雅

②



③

マリン・サイエンス部門　ちょうちんあんこう賞
/道南伝統食品協同組合賞

「炭酸カルシウム系水産廃棄物を用いた金属イオンの吸着
～持続可能な社会活動に向けて～」
中居佑太・内山大雅（青森県立弘前中央高等学校自然科学部）

作品概要

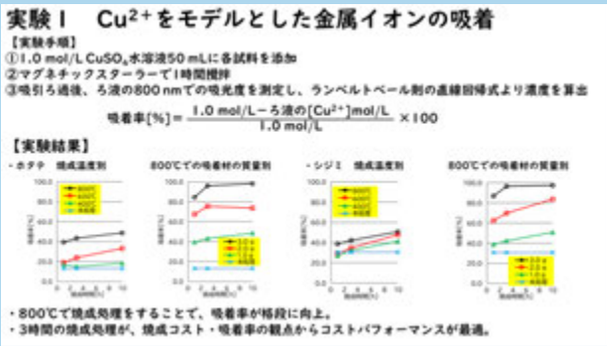
吸着特性が知られる炭酸カルシウムを主成分とするホタテやシジミを金属イオンの吸着材として使えるかを、銅(Ⅱ)イオン水溶液をモデルとして、吸着実験を行いました。800℃で焼成処理すると溶解度が小さい物質として沈殿させることができ、800℃で3時間焼成した3gの各貝殻では1mol/L銅(Ⅱ)イオンに対し、95%以上の吸着率を示しました。ＳＥＭ撮影や貝殻の観察から、タンパク質や色素分子が揮発したことで細孔が生じ、吸着率が向上したと考えました。

審査員評

本研究は、未利用で廃棄物となっているホタテとシジミの貝殻を、「焼成」という処理を加えることで水質浄化剤として利用できる可能性を示した。数値としてグラフを作っているが、硫酸銅溶液の色の変化など、聴衆にわかりやすいデータの提示をしてもよかったのではないか。また大量に作れるのなら、実際に湖の水などを濾過してみて、元の水と濾過後の水で透明度などにどのような変化が見られるか知りたいものである。せっかくの重要なデータなので、その提示の仕方を工夫して欲しい。

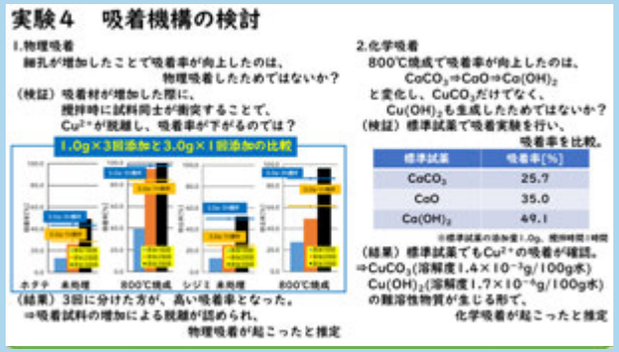
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター　教授
七飯淡水実験所　所長　山羽　悦郎

④

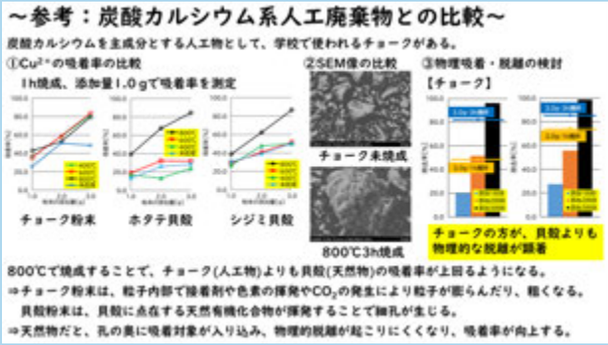


⑤

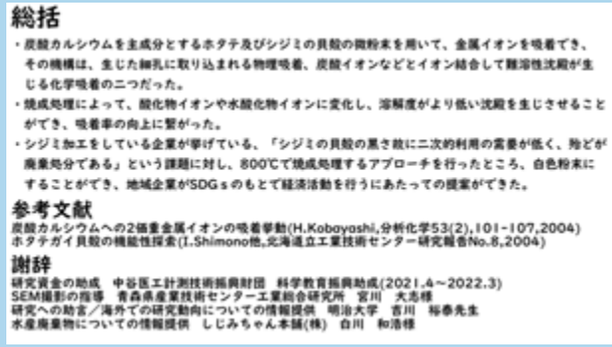
⑥



⑦



⑧



受賞者の声

高校生活の約半分をかけて研究した思い入れのある研究で、この海の宝アカデミックコンテストの賞を受けることができすごく嬉しかったです。多くのデータを集め見やすくスライドを作成するのは大変でしたが、多くの教授や研究者を前にして発表するという経験は今後の学生生活でも活かすことのできるものとなりました。また他の府県から集まった興味深い研究の発表も聞くことができ有意義な時間を過ごすことができました。

①

②

③

マリン・カルチャー部門　**海の宝大賞（最優秀賞）**
/日本財団賞　/医食同源賞
「魚膠～古の天然物質～」
小高恵真・藤原さくら（京都先端科学大学附属中学校）

作品概要

膠は動物の皮から作られることが多く知られているが、魚の皮や骨・鱗からも作ることができる。また、墨の原料として膠は使われている。そこで、全て天然物質で墨を作ることにした。魚の捨てる部位から膠を抽出し、銭湯の釜に付いている煤を提供していただき、魚膠と煤と水のちょうど良い割合について研究した。魚膠は、動物の膠に比べて抽出が容易であると考える。今後も魚膠の可能性について追求したい。

審査員評

京都市内には海はないが、通学路にあるこだわりの鮮魚店を身近な海の入口とみている。そこで自ら交渉し提供をうけた魚の廃棄部から古代の接着剤としての膠を直に作製して、試行錯誤や実験を経て天然の墨汁を再現した。作品では、海の資源の持続可能性や未来の素材としての活用、環境問題などを含み、現代の重要課題、メッセージが生き生きと表現されていた。海由来の膠について時間や空間を自由に行き来してあれやこれやと想うことができた。

北海道立工業技術センター センター長　安井　肇

④

⑤

⑥

⑦

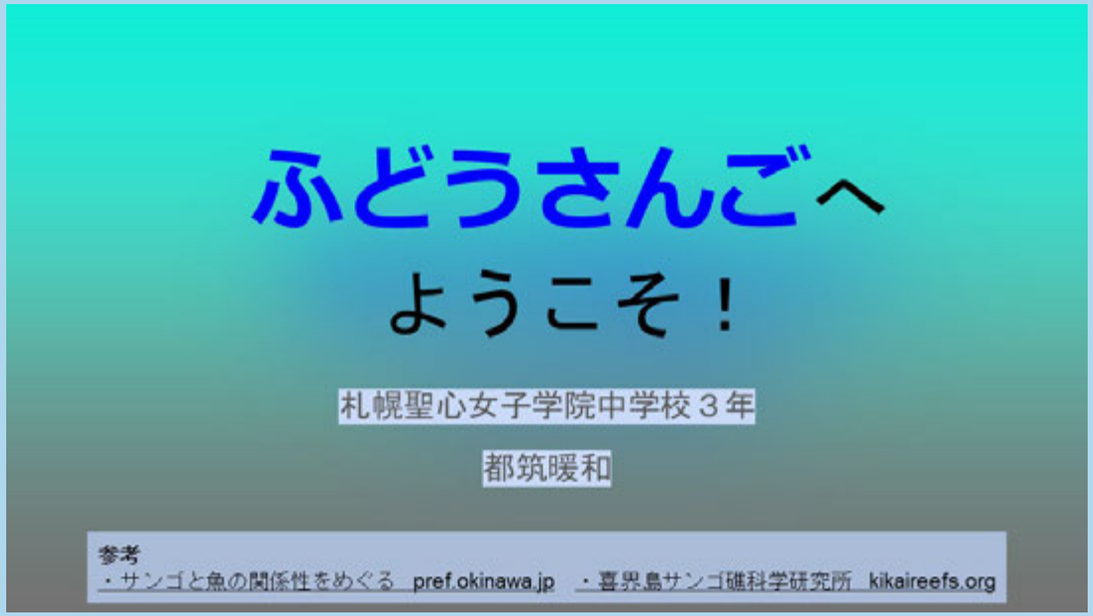
⑧

受賞者の声

今回初めてこのマリンコンテストに参加することが出来てとても嬉しかったです。

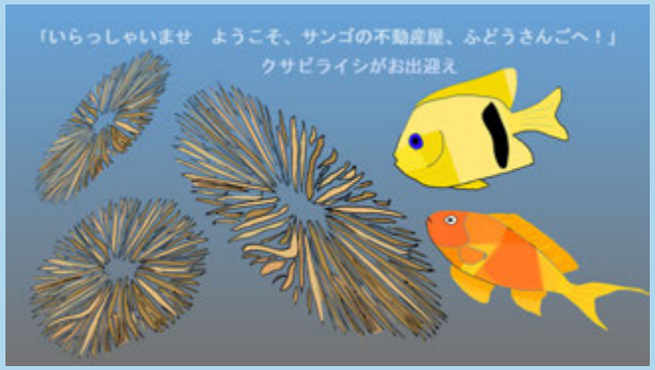
発表の時間は声が震えるくらい緊張していたので、名前を呼ばれ賞状を受け取ったときドッと安心しました。これから膠についての研究を続けていろんな人に伝えられるよう頑張っていきます。協力してくださった先生方、地域の方々マリンコンテストの方々本当にありがとうございました。

①



②

③



マリン・カルチャー部門　おとひめ賞
/マリンイノベーション特別賞
「ふどうさんごへ　ようこそ！」
都筑暖和（札幌聖心女子学院中学校）

作品概要

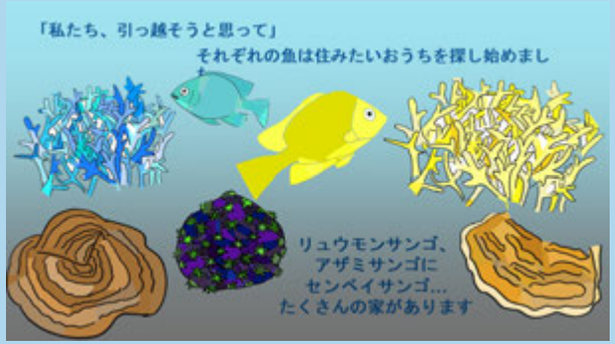
この作品は、サンゴとサンゴの周りやサンゴの中で生活する海の生き物について、絵本としてまとめたものです。サンゴを動かない家、すなわち人間の世界でいう不動産、サンゴの周りや中にすむ魚や貝、ヤドカリやカニなどを家の住民としてお話を作り、そのお話に出てくる生き物を私が初めて海の中を見て、感動したときの見え方で描きました。

審査員評

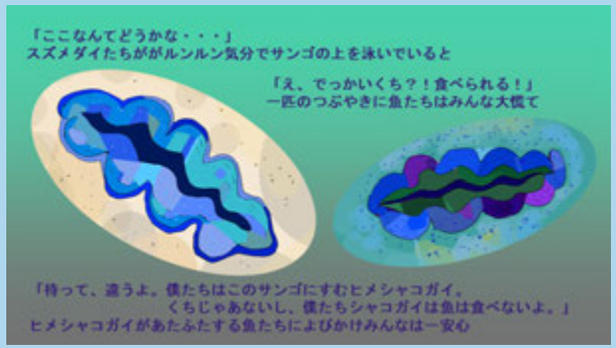
不動産とサンゴを引っかけて「ふどうさんご」。このタイトルがまず目を引きました。魅力的な絵と短い文章で、説得力のある作品に仕上がっています。まるで絵本のようです。都筑さんは海が大好きなのでしょうね。地球の約96.5%を占めている海。その環境と生態系を守りたいという思いが伝わってきました。「海」や「環境」といったくくりでシリーズ化すると、もっと伝わりやすいかもしれません。がんばってくださいネ！

ライター・管理栄養士　佐々木　ゆり

④



⑤



⑥

⑦

⑧

受賞者の声

頂上コンテストへ参加させていただけたこと、おとひめ賞を受賞したことをとてもありがたく、またとても嬉しく思っています。
頂上コンテストでは様々な作品を見て、海の宝は多様だな。もっと色々な宝を知りたい。と思いました。
これから海やサンゴ、今回絵本のテーマとしたサンゴとサンゴに住む生き物について、自分の理解を深め、色々な人にも自分なりにそれらを伝えていこうと思います。ありがとうございました。

①

②

③

マリン・カルチャー部門　おとひめ賞
/函館市の魚「イカ」賞 /道南伝統食品協同組合賞
「『思いやり』の宝庫　柏崎の海 」
倉賀野由郁・佐藤迅真・髙橋千紘・松井裕生・山口晄生
（新潟県立柏崎高等学校 生物部マリン・サイエンスチーム）

作品概要

柏崎の海沿いにはたくさんの文化財があります。それらの文化財には、先人たちの「思いやり」がたくさん込められていることを知りました。現在、地球温暖化や環境破壊などの様々な問題が世界を取り巻く中で、私たちも次の世代の人たちへの「思いやり」を持って活動していこう、という思いを込めてスライドを作成しました。この作品を通して、後の世代により良い海を残していく決意を皆さんと共有したいと思っています。

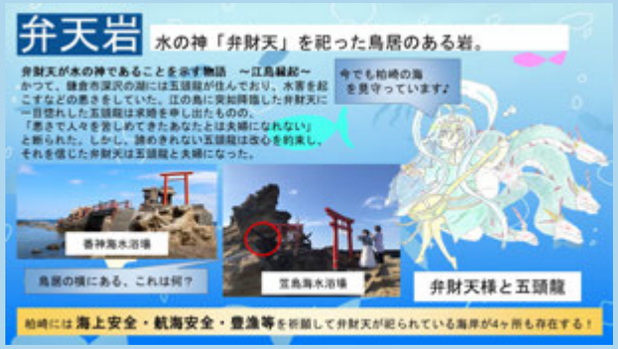
審査員評

柏崎の海を先人達の「思いやり」として、引き継いでいく意識が感じられすばらしかったです。今回のお話は、柏崎の海の物語や歴史を、イラスト、写真を使用しわかりやすく説明されており、一度訪れてみたい気持ちになりました。歴史や文化は、大切に引き継いでいくことがとても重要であると感じていますが、その思いやりのおかげで、今回皆さんからの物語を函館で聞くことができました。ありがとうございます。これからも先人達の「思いやり」を、ぜひ様々な方へ伝えていってください。

函館市企画部国際水産・海洋都市推進室　主査　岸元　祐二

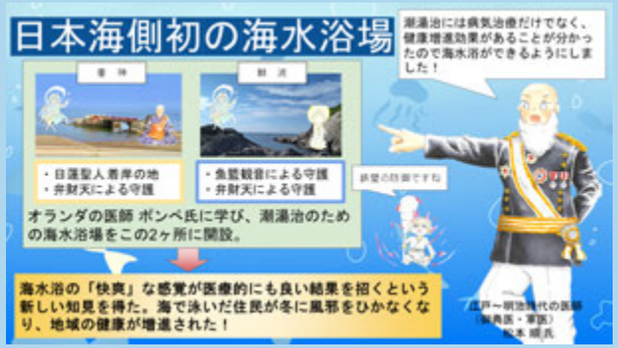
④

⑤

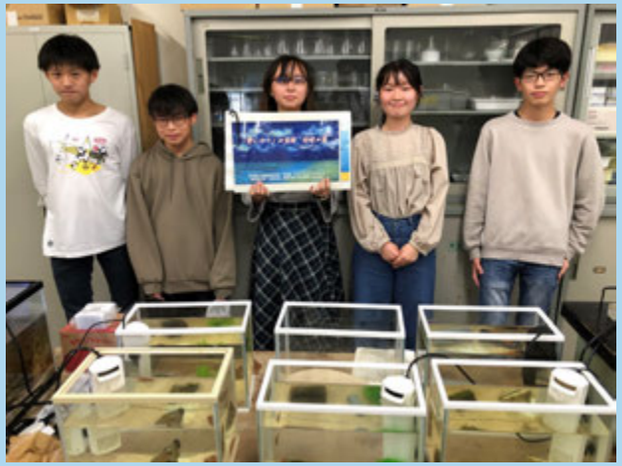


⑥

⑦



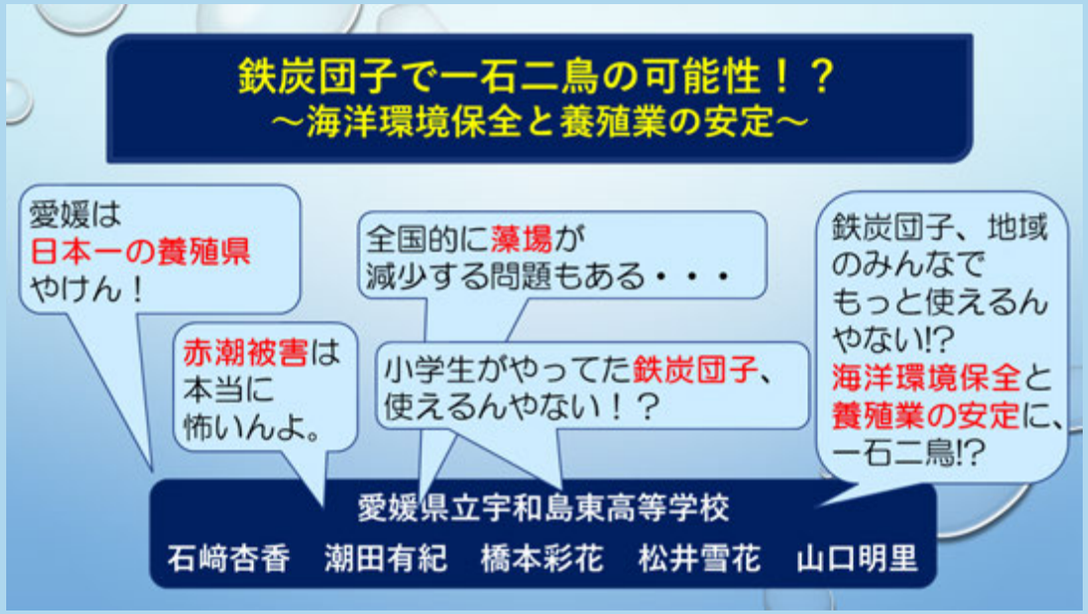
⑧



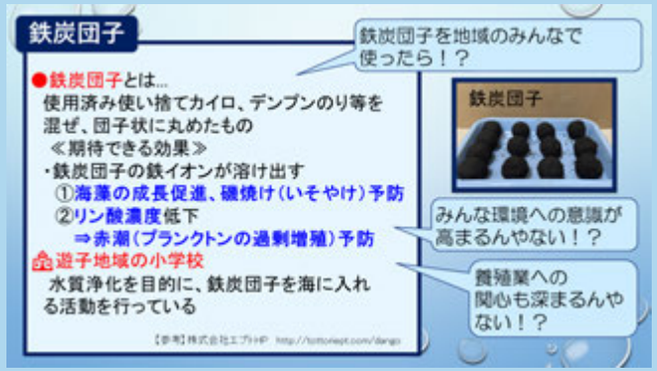
受賞者の声

おとひめ賞、他２賞を頂けたこと、光栄に存じます。また、他の方々の作品からは地元や海への強い思いを感じられ、大変良い刺激を受けました。この大会への参加を通して、審査員の方々も仰っていたように、柏崎の新たな魅力やイメージを発信し、作っていくことは私たちでもできると実感しました。今後も、みなさんに負けない「海愛」を持って活動して参ります。今回は本当にありがとう御座いました。

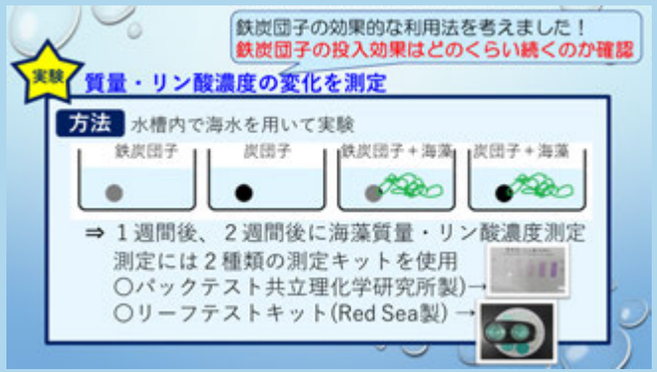
①



②



③



マリン・カルチャー部門　うらしま賞
/日本海洋科学振興財団オーシャン・アート賞
/海文堂出版・北水ブックス賞
「鉄炭団子で一石二鳥の可能性！？～海洋環境保全と養殖業の安定～」
山口明里・石﨑杏香・潮田有紀・橋本彩花・　松井雪花
（愛媛県立宇和島東高等学校）

作品概要

鉄炭団子（使用済みカイロにデンプンのり等を混ぜてこぶし大の大きさに丸めたもの）には、 溶出する鉄イオンによって、海藻の成長促進による藻場の回復や、リンの吸着による有害プランクトンの異常発生抑制（赤潮被害低減）の効果があるとされている。海洋環境と養殖業について養殖業が盛んな愛媛県南予地域において、鉄炭団子を地域の人々とともに継続的に使用することで、海洋環境保全と養殖業の安定につながるのではないかと考えた。鉄炭団子の効果を確かめ、宇和海沿岸の地理的特徴を調べて、効果的な投入方法を提案した。

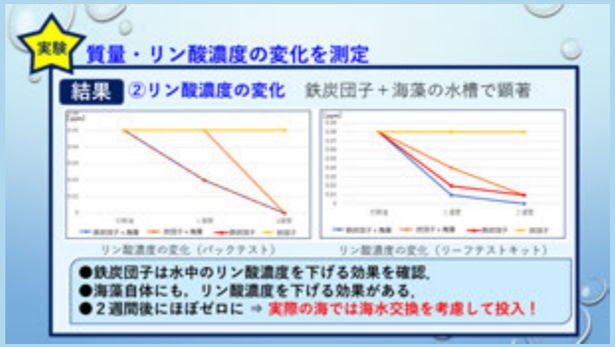
審査員評

地区予選を審査した際、なぜカルチャー部門？サイエンス部門のほうがよかったのでは？と思い、心配していたのですが、全国大会へ出場されたのを見てホッとしました。「地元の海と養殖業をいつまでも守りたいけん！」という地元愛がひしひしと伝わってきて、だからカルチャー部門だったんですね。次のステップであるフィールドでの実験を期待するとともに、鉄炭団子の投入が宇和島の風物詩になる日が来ることを楽しみにしています。

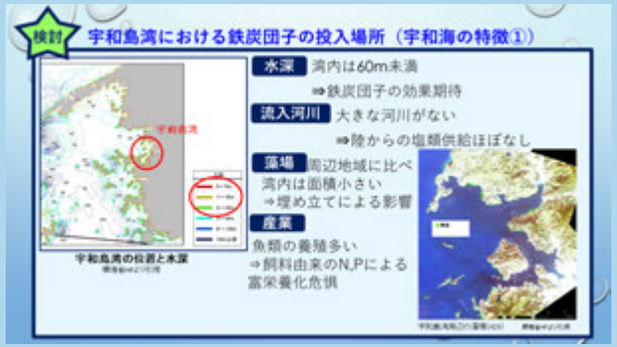
海文堂出版株式会社　編集部長　　岩本　登志雄

④

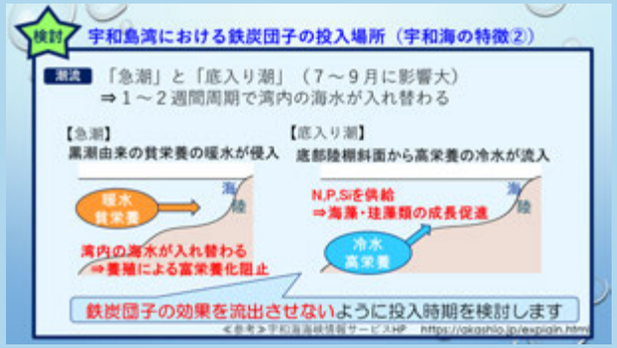
⑤



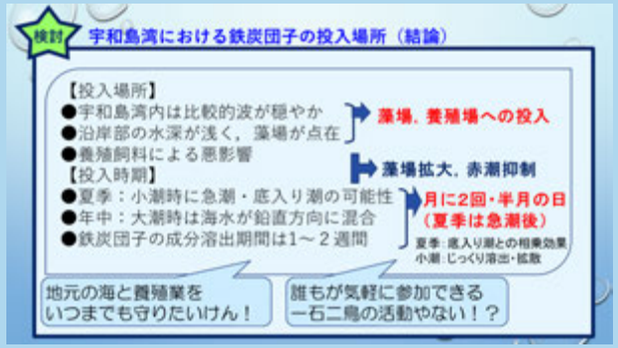
⑥



⑦



⑧

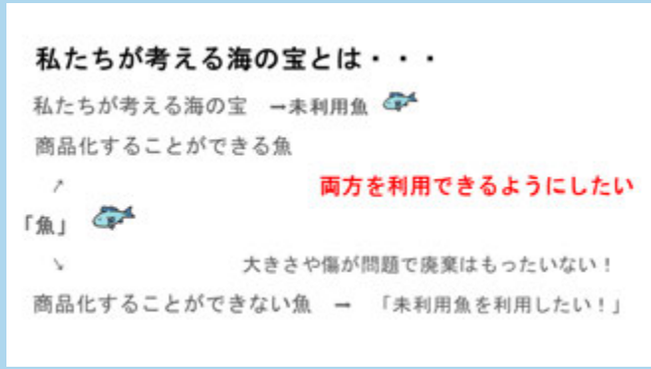


受賞者の声

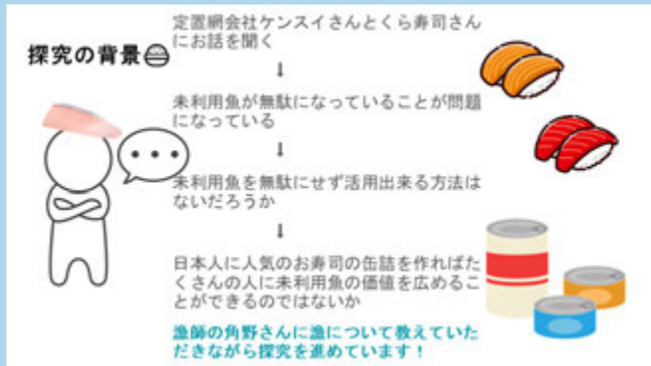
地元宇和島を舞台にした作品で受賞することができ、とてもうれしいです。少しは“宇和島”を全国にアピールできたかな、と思います。私たち自身も、この研究を通して、宇和島の産業や地理的特徴への理解が深まりました。愛媛県南予地域は、他の地方同様に、過疎化や高齢化が心配されます。私たちは、高校を卒業したらみんな違う方向へ進みますが、地域の自然と人々の生活が守られるよう、いろいろな方面から貢献したいと思います。

①

②



③



マリン・カルチャー部門　うらしま賞 /道南伝統食品協同組合賞

「未利用魚を使った寿司の缶詰を作りたい」

池尾柚夢・下中くるみ・中本莉緒・松原心菜

（福井県立若狭高等学校）

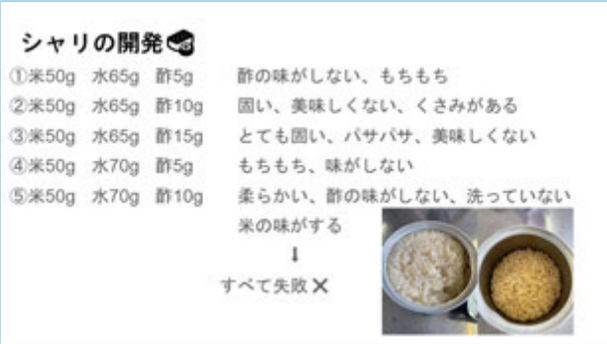
作品概要

私達は未利用魚を使って寿司の缶詰を作るという実験を行いました。市販のお寿司を缶詰に入れたときに成功し自分たちで分量を調べて寿司を作ったところ、味も見た目も失敗してしまい、シャリから見直さなければいけなくなったのでシャリの開発を行うことになりました。二度の米の実験を行って良い固さの米にたどりつくことが出来ました。その後の実験では見た目や味について研究しました。まだ途中段階なのでこれからも寿司の缶詰の研究を勧めていきます。

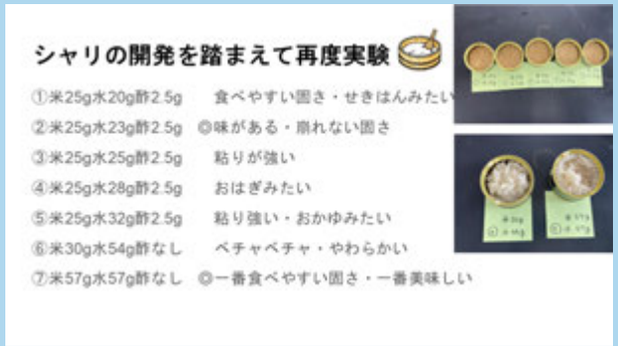
審査員評

お寿司は生モノという固定概念にとらわれず、缶詰にしてしまおうという発想が驚きでした。また、失敗を恐れず愚直に実験した缶詰用のシャリ開発は、まずやってみるという研究の基本から始まり、遂に美味しく、食べやすい固さまで突き止めることができました。「ここまでしてなぜ缶詰か？」、それは「宇宙でもお寿司を食べられるようにしたいから」とのこと。未利用魚が宇宙の寿司ネタになるその日まで、まさに海の宝プロジェクトですね。　　地域水産業共創センター　教授　福田　覚

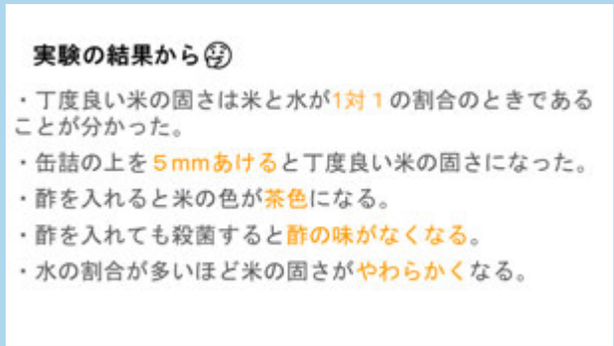
④



⑤

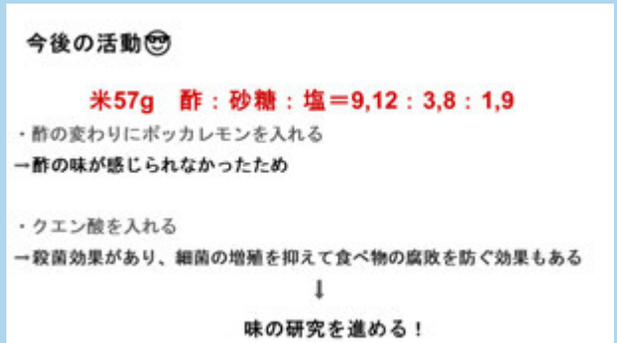


⑥



⑦

⑧



受賞者の声

福井県でもたくさんの応募があった中から、私たちのグループが選ばれた時点でとても嬉しかったです。発表するのはとても緊張しましたが、審査員さんから頂いた貴重な意見を今後活用していこうと思います。他の学校のレベルが高すぎて驚きました。しかし私達のグループが２つの賞をもらえて嬉しかったです。　私たちの作品が選ばれた時は本当に驚きました。緊張しましたが、伝えたいことを伝えきれたので良かったです。数々の作品の中から選ばれるということは本当に光栄なことなので嬉しかったし、審査員の方から頂いたアドバイスは本当に参考になったので今後の探求活動に活かしていきたいです。本当にありがとうございました。

①

②

③

マリン・カルチャー部門　うらしま賞 /医食同源賞

「アニサキス、サガス！」

村井芳羽（函館白百合学園中学校）

作品概要

コロナ禍で、料理する機会が増えた。ニュースでしか知らなかったアニサキスを、ブリ調理中に発見した。今まで料理された魚しか見なかったので、調理して初めてアニサキスが身近なものと知って驚いた。
この作品では、魚をおいしく安全に食べるためにアニサキスについて調べた。生態、人間や魚に与える影響、倒し方などを図にまとめた。「人間への害があるのに、魚は大丈夫なのか」という疑問は自分なりに解けた。また、魚の切り身に実際にアニサキスがいないかも観察した。

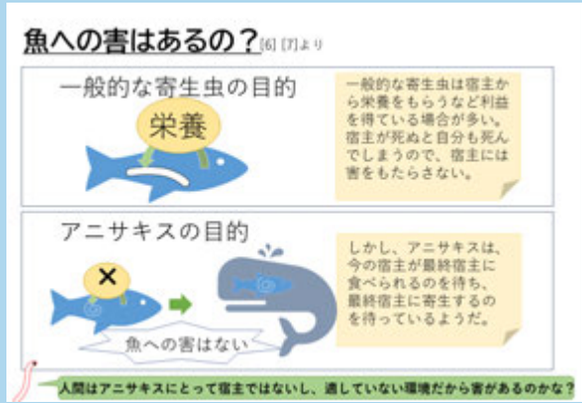
審査員評

魚介類をさばけばよく見かけるアニサキス。本作品では、アニサキスの生態や人への影響、予防方法について調べるだけではなく、実際に魚からアニサキスを探して観察しています。イメージではなくアニサキスの正しい知識を持ち、その知識を組み合わせることでリスクを減らし、これからも海の宝をおいしく食べていきたいと思える、素晴らしい作品でした。今後は、今回アニサキス以外に見つかった寄生虫にも興味を持って調べてみてください。

漁港漁場漁村総合研究所　主任研究員　髙原　英生

④

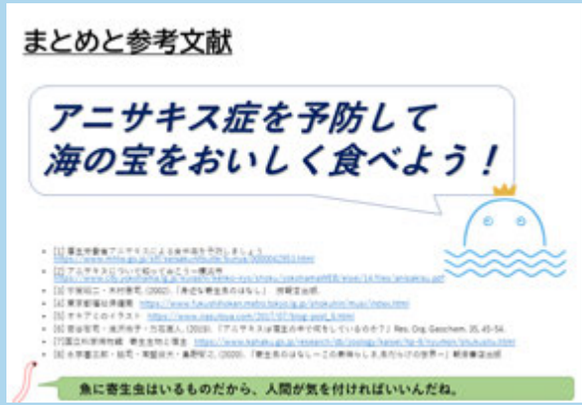
⑤



⑥

⑦

⑧

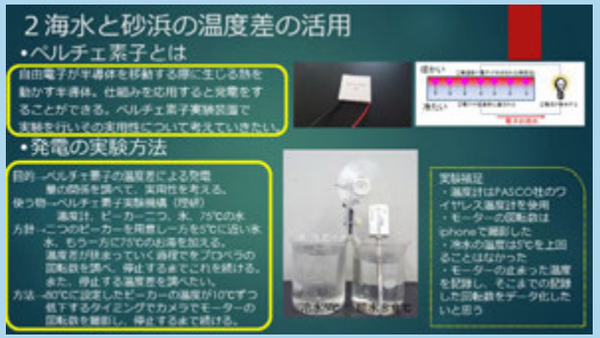


受賞者の声

今回、頂上コンテストに参加させていただき、ありがとうございました。初めてのプレゼンテーションでとても緊張しましたが、うらしま賞や医食同源賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。このコンテストを通して、アニサキスについて学ぶことができました。また、他の発表を聞いて、様々な海の宝を知ることができ、良い経験になりました。この経験を今後に活かしていきたいです。このような貴重な機会をくださってありがとうございました。

優秀賞

北海道・東北ブロック　マリン・サイエンス
「アカモクの成育時期と形状多様性の評価」
尾崎　裕介（羽黒高等学校）



優秀賞

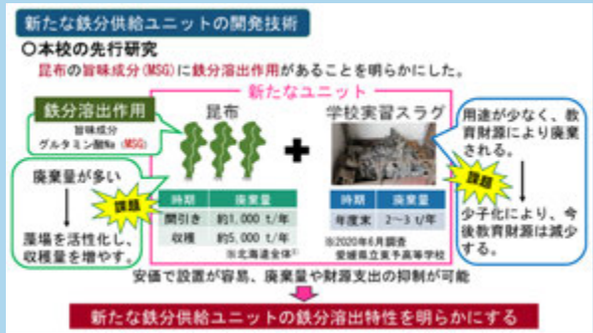
関東・中部ブロック　マリン・サイエンス
「温度差を使った再生可能エネルギー」
神奈川県逗子開成中学校・高等学校

優秀賞

近畿・中国ブロック　マリン・サイエンス
「ウミケムシを利用するには
～蛇行と毛の重要性～」
岡山学芸館高等学校

優秀賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス
「博多湾におけるより良いアマモの移植方法」
進藤　大雅（福岡工業大学附属城東高校）



優秀賞

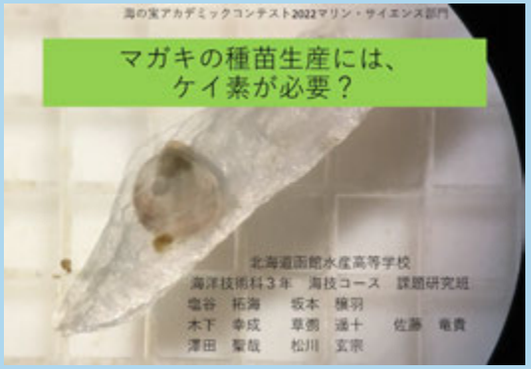
四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス
「廃棄昆布と学校実習スラグを活用した
ブルーカーボン技術」
愛媛県立松山中央高等学校

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・サイエンス
「海藻に含まれるヨウ素の抽出について（第二報）
～抽出時間の違いによるヨウ素抽出量の変化～ 」
北海道函館中部高等学校

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・サイエンス
「函館近海の魚類から採取した
マイクロプラスチックの調査」
北海道函館中部高等学校



奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・サイエンス
「マガキの種苗生産には、ケイ素が必要？ 」
北海道函館水産高等学校

奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス
「越後Wineヒラメの開発プロジェクト
2021-2022 」
新潟県立海洋高等学校水産資源科資源育成コース

奨励賞

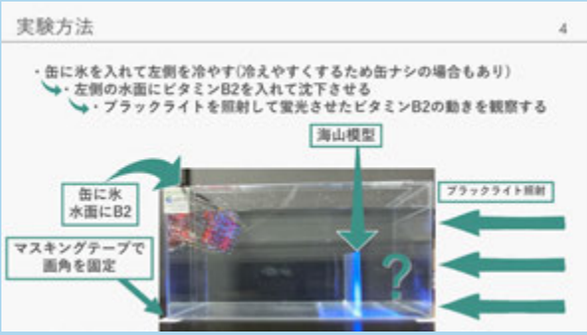
関東・中部ブロック　マリン・サイエンス
「『使わない』を無くしていく～魚類残滓と
外来植物を用いたフレグランスの作製～ 」
新潟県立柏崎高等学校
生物部マリン・サイエンスチーム

奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス
「生分解性プラスチックはヒーローになれるのか
～海の魅力を守り伝えて行くために～ 」
鎌倉学園高等学校

奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス
「次世代の探査に対応した小型探査機
～海のラジオゾンデ～ 」
東京工業大学附属科学技術高等学校



奨励賞

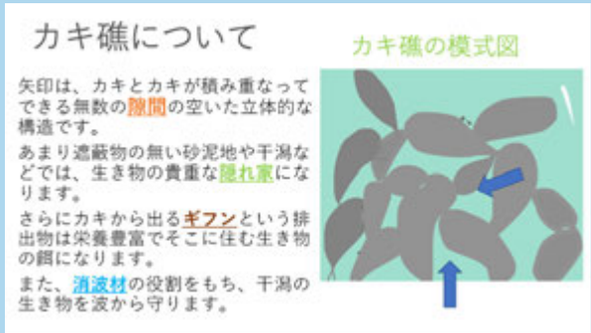
関東・中部ブロック　マリン・サイエンス
「湧昇海流の新たなメカニズムを探る」
神奈川県逗子開成中学校・高等学校

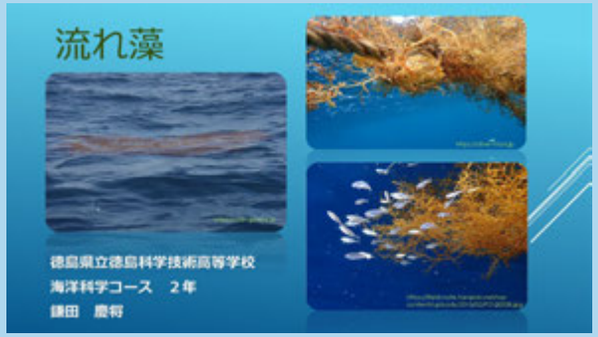
奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス
「紅藻カギケノリ系統保存株の
最適生育条件の探索」
お茶の水女子大学附属高等学校

奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・サイエンス
「ゴミが集まる場所を見つけよう！
～浮遊物とシミュレーションを用いた調査～ 」
岡山学芸館高等学校





奨励賞

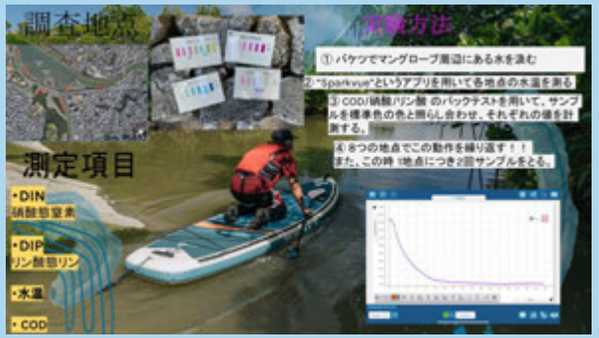
近畿・中国ブロック　マリン・サイエンス
「バイオミメティクスを用いて
水をより楽に、よりきれいに」
村上　友春（青翔開智高等学校）

奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・サイエンス
「カキ礁が救うもの」
大阪高等学校

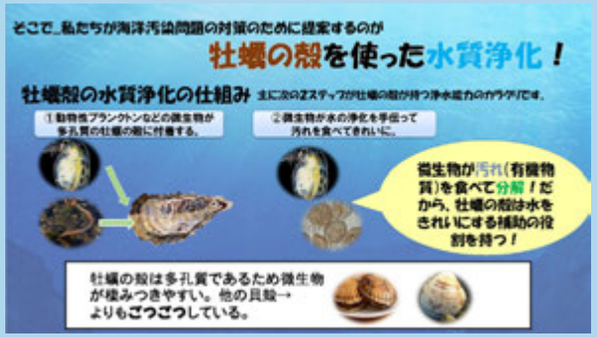
奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス
「流れ藻」
鎌田　慶将（徳島県立徳島科学技術高等学校）



奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス
「国場川のマングローブの水質は
海藻の生育にどの程度 適しているか」
沖縄尚学高等学校



奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス
「牡蠣の殻で海洋汚染に立ち向かえ！ 」
九州産業大学付属九州高等学校

奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス
「腕が増える？！ ～タコノマクラを人の手で育む～」
福岡工業大学附属城東高校

優秀賞

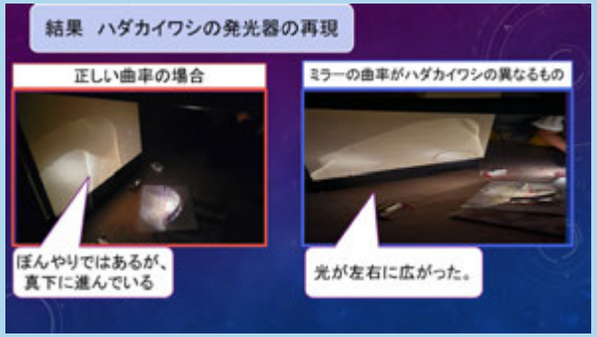
北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー
「青森県にいるかっているんか？」
青森県立弘前中央高等学校自然科学部

優秀賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「Ask Yourself, Before Throwing Away Your Mask!」
Ocean Weekend Youth

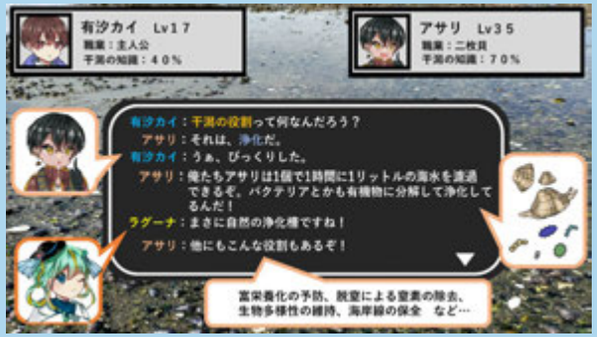
優秀賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー
「日本から世界へ ジャマモ
『サルガッスム』の有効活用法」
平岩 恋季（岡山学芸館高等学校）



優秀賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー
「深海の数学者」
岡山学芸館高等学校



優秀賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー
「干潟の宝～干潟について学ぼう！～」
福岡工業大学附属城東高校

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー
「海洋酸性化」
三好　澪（函館白百合学園中学校）

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー
「『ゆめ水族園がやって来た！』」
北海道函館養護学校中学部美術科

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー
「わかめのひみつ～宮城の海の宝～」
宮城県仙台第三高等学校

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー
「眠りにつくと」
白石　かのん（北海道小樽水産高等学校）

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー
「海になる　大久保来星編」
大久保　来星（北海道函館養護学校　高等部）

奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「魚粉を使ったお菓子作り」
福井県立若狭高等学校

奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「魚のアラをソーセージに変身させよう」
福井県立若狭高等学校

奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「海のそうじ屋?～フナムシの秘密～」
稲葉　一仁
（神奈川県逗子開成中学校・高等学校）

奨励賞

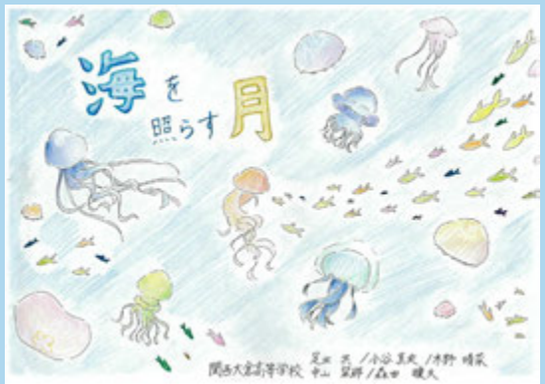
関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「What is Zushi beach?
～海水浴場とはなにか～」
神奈川県逗子開成中学校・高等学校

奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー
「日本の海から生まれたちくわ」
大阪府立工芸高等学校

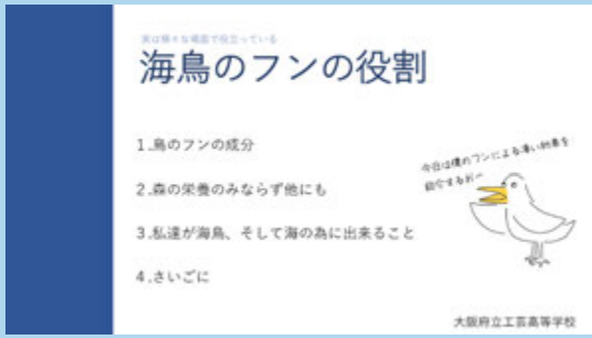
奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー
「あつまれ学芸館海洋研究組」
林　志龍（岡山学芸館高等学校）



奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー
「海を照らす月」
関西大倉高等学校



奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー
「海鳥のフンの役割」
大阪府立工芸高等学校

奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー
「海女さんはすごい！　～50秒の勝負～」
大阪府立生野高等学校　写真部

奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー
「ヒオウギ貝は白墨である」
未来高等学校

奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー
「全ての生物が幸福であるかのように」
藤原　楓也（徳島県立徳島科学技術高等学校）

奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー
「伊予さつまの秘密」
未来高等学校

奨励賞

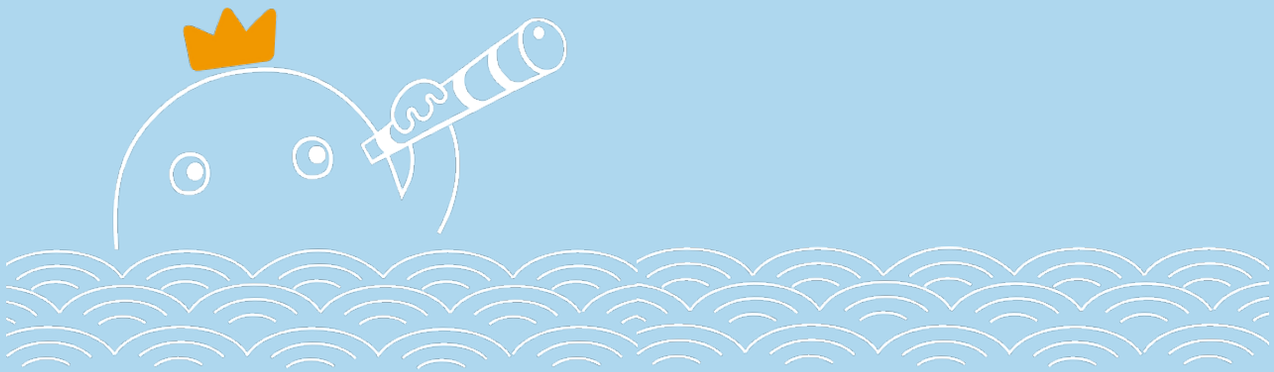
四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー
「友高さんと家出した褐虫藻」
上本部中学校

奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー
「ミニ水族館『風早アクアランド』を
活用した環境啓発活動」
愛媛県立北条高等学校「風早アクアランド」

奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー
「知ってる？養殖のこと」
川野　嘉斗（香川県立坂出高校）



三田国際学園(酒...

日本財団
THE NIPPON FOUNDATION
海と日本
PROJECT

北海道大学水産学部施設見学

日　　程	１１月５日（土）　１６：００ ～ １８：００
開 催 場 所	北海道大学函館キャンパス
内　　容	北海道大学の養殖に関わる研究施設を見学し、研究のバックヤードを理解するとともに大学院生と交流する。

海の宝アカデミックコンテスト2022 全国大会 -海と日本PROJECT-　審査員名簿

阿部 慶太	函館市企画部国際水産・海洋都市推進室
安部 智貴	函館国際水産・海洋都市推進機構
飯田 高大	北海道大学水産学部附属練習船うしお丸
今村　央	北海道大学大学院水産科学研究院
岩本登志雄	海文堂出版株式会社
宇治 利樹	北海道大学大学院水産科学研究院
浦　和寛	北海道大学大学院水産科学研究院
大西 広二	北海道大学大学院水産科学研究院
笠井 久会	北海道大学大学院水産科学研究院
春日井 隆	名古屋港水族館
川合 祐史	北海道大学大学院水産科学研究院
川越　力	共和コンクリート工業株式会社 海藻技術研究所アルガテックKyowa
菊池 基弘	サケのふるさと千歳水族館
岸村 栄毅	北海道大学大学院水産科学研究院
岸元 祐二	函館市企画部国際水産・海洋都市推進室
北藤 真人	株式会社海遊館
木村 暢夫	北海道大学大学院水産科学研究院
工藤　勲	北海道大学大学院水産科学研究院
工藤 秀明	北海道大学大学院水産科学研究院
米山 和良	北海道大学大学院水産科学研究院
齊藤 拓男	株式会社道新デジタルメディア
佐々木 章	かごしま水族館
佐々木建一	海洋研究開発機構　地球環境部門 むつ研究所
佐々木ゆり	ライター・管理栄養士
清水 宗敬	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
新　和宏	千葉市科学館
神　賢寿	札幌市円山動物園
都木 靖彰	北海道大学大学院水産科学研究院
高橋 勇樹	北海道大学大学院水産科学研究院
髙原 英生	漁港漁場漁村総合研究所
多田 邦尚	香川大学農学部
鉄 多加志	東海大学海洋学部
長江 真樹	長崎大学水産・環境科学総合研究科
中田 邦彦	日本分析化学専門学校
中屋 光裕	北海道大学大学院水産科学研究院
中山 一郎	株式会社医食同源
成田 幸大	道南伝統食品協同組合
布村 重樹	北海道マリンイノベーション株式会社
埜澤 尚範	北海道大学大学院水産科学研究院
畠　隆	北海道大学　ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点
平松 尚志	北海道大学大学院水産科学研究院
福田　覚	地域水産業共創センター
藤田 秀樹	函館国際水産・海洋都市推進機構
藤森 康澄	北海道大学大学院水産科学研究院
星　直樹	北海道大学水産学部附属練習船おしょろ丸
水田 浩之	北海道大学大学院水産科学研究院
溝垣 春奈	日本財団　海洋事業部　海洋環境チーム
宮崎 隆志	北海道大学大学院教育学研究院
宮下 和士	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
宮田 昌彦	放送大学
村田 良介	長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センター
安井　肇	北海道立工業技術センター
山木 将悟	北海道大学大学院水産科学研究院
山羽 悦郎	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
山本　潤	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
横川 真奈美	公立はこだて未来大学
吉野 博之	函館地域産業振興財団
和田　哲	北海道大学大学院水産科学研究院
渡邉 修一	日本海洋科学振興財団　むつ海洋研究所
綿貫　豊	北海道大学大学院水産科学研究院

海と日本PROJECT サポートプログラム
海の宝アカデミックコンテスト2022・新しい日常で海の魅力を考えよう（海と日本2022）

運営委員会委員

都木 靖彰，木村 暢夫，藤森 康澄，川合 祐史（北海道大学大学院水産科学研究院），山羽 悦郎（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター），阿部 慶太（函館市企画部 国際水産・海洋都市推進室），田柳 恵美子（公立はこだて未来大学），藤田 秀樹（函館国際水産・海洋都市推進機構），安井 肇，吉野 博之（北海道立工業技術センター・函館地域産業振興財団），渡邉 修一（日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所）

実行委員会委員

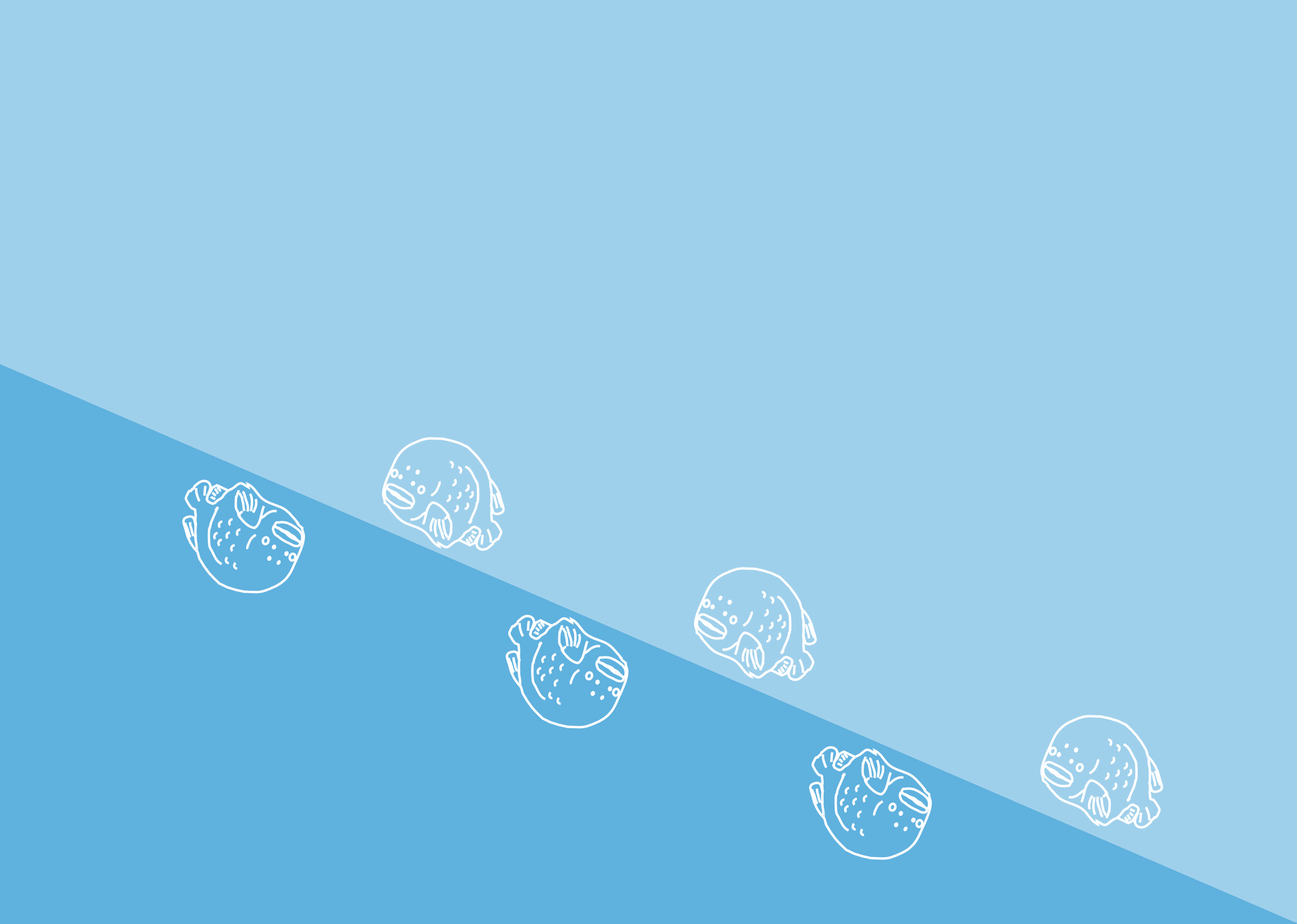
宇治 利樹，浦 和寛，大西 広二，笠井 久会，川合 祐史，岸村 栄毅，木村 暢夫，工藤 秀明，米山 和良，都木 靖彰，高橋 勇樹，中屋 光裕，埜澤 尚範，平松 尚志，藤森 康澄，水田 浩之，山木 将悟，綿貫 豊，和田 哲（北海道大学大学院水産科学研究院），清水 宗敬，宮下 和士，山本 潤（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター），飯田 高大（北海道大学水産学部附属練習船うしお丸），星 直樹（北海道大学水産学部附属練習船おしょろ丸），安部 智貴（函館国際水産・海洋都市推進機構），川越 力（共和コンクリート工業株式会社 海藻技術研究所アルガテックKyowa），菊池 基弘（サケのふるさと千歳水族館），岸元 祐二（函館市企画部 国際水産・海洋都市推進室），北藤 真人（株式会社海遊館），齊藤 拓男（株式会社道新デジタルメディア），佐々木 章（かごしま水族館），佐々木 建一（海洋研究開発機構 地球環境部門 むつ研究所），佐々木 ゆり（ライター・管理栄養士），新 和宏（千葉市科学館），多田 邦尚（香川大学農学部）

海の宝2022

発 行 日 ： 2023年2月21日

発　　行 ： 海と日本PROJECT サポートプログラム
「海の宝アカデミックコンテスト2022・新しい日常で海の魅力を考えよう（海と日本2022）」実行委員会

問 合 せ ： 北海道大学大学院水産科学研究院 マリン・ラーニング事務局
〒041-8611　北海道函館市港町３丁目１番１号
【TEL】 (0138) 40 - 5544　【FAX】(0138) 40 - 8889
【MAIL】 umicon@fish.hokudai.ac.jp　【HP】 https://www.umicon.jp

印　　刷 ： 江戸製版印刷（株）

このイベントは、海と日本PROJECTの一環で実施しています